

都城市内遺跡 5

2012年3月

宮崎県都城市教育委員会

序 文

本書は、都城市教育委員会が各種開発に対し埋蔵文化財の保護を図るため、平成 23 年度に国県補助を受け実施した市内遺跡の試掘・確認調査の報告書です。この報告書が各種開発事業の際の協議や調整に利用されるとともに、学術資料としても広く活用していただければ幸いです。

試掘・確認調査に従事していただいた市民の皆様をはじめ、地権者ならびに開発関係者のご協力を賜りましたことに対し、深く感謝申し上げます。

平成 24 年 3 月

都城市教育委員会
教育長 酒匂 醍以

例 言

1. 本書は、各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国県補助を受けて平成 23 年度に実施した市内遺跡発掘調査の報告書で、市内 23 地点（事業）において実施した試掘・確認調査の成果を掲載した。
2. 調査主体 都城市教育委員会
教育長 酒匂 醍以
教育部長 日高裕文
文化財課長 坂元昭夫
副課長 山下進一郎
主幹 松下述之 桑畠光博
調査担当 桑畠光博 下田代清海 久松亮 近沢恒典
庶務 平川美奈子 松村美穂
3. 本書に掲載した調査区域図・土層断面図の製図、現場の写真撮影及び調査概要の執筆は、各調査担当者が行い、久松が編集した。
4. 遺物の実測は調査員の指導のもとに整理作業員が行い、久松が製図した。
5. 本書に記載した図面の製図は株式会社CUBIC「トレースくん Cubic 2011」を用い、ADOBE ILLUSTRATOR CS3にて編集を行った。
6. 出土遺物と各種記録類は都城市教育委員会で保管している。

本文目次

はじめに	1
公共事業	
出口遺跡	4
東町（量海院跡推定地）	5
西岳小学校	10
姫城中学校	11
池ノ友遺跡	12
高崎小学校	14
宮ノ下遺跡	15
民間開発	
菓子野地下式横穴墓群	16
安永城址	24
東脇遺跡	26
稻荷原遺跡	27
小瀬第2遺跡	28
小松尾遺跡	29
都島町（龍峯寺跡）	30
田谷・尻枝遺跡	33
原村遺跡	34
諏訪免遺跡	35
後迫遺跡	36
女橋遺跡	38
村ノ前遺跡	39
猪之谷遺跡	40
胡摩段遺跡	41
取添第2遺跡	42

はじめに

都城市は宮崎県の南西部、東から南は鰐塚山・柳岳を主峰とする鰐塚山地に、北西は霧島火山の高千穂峰を（標高 1574 m）を主峰とする霧島連山に囲まれた都城盆地に位置する。標高は市街地で 150 m ほど、最も低いのは高城町四家の本八重地区で 56 m となる。面積はおよそ 653 km² である。

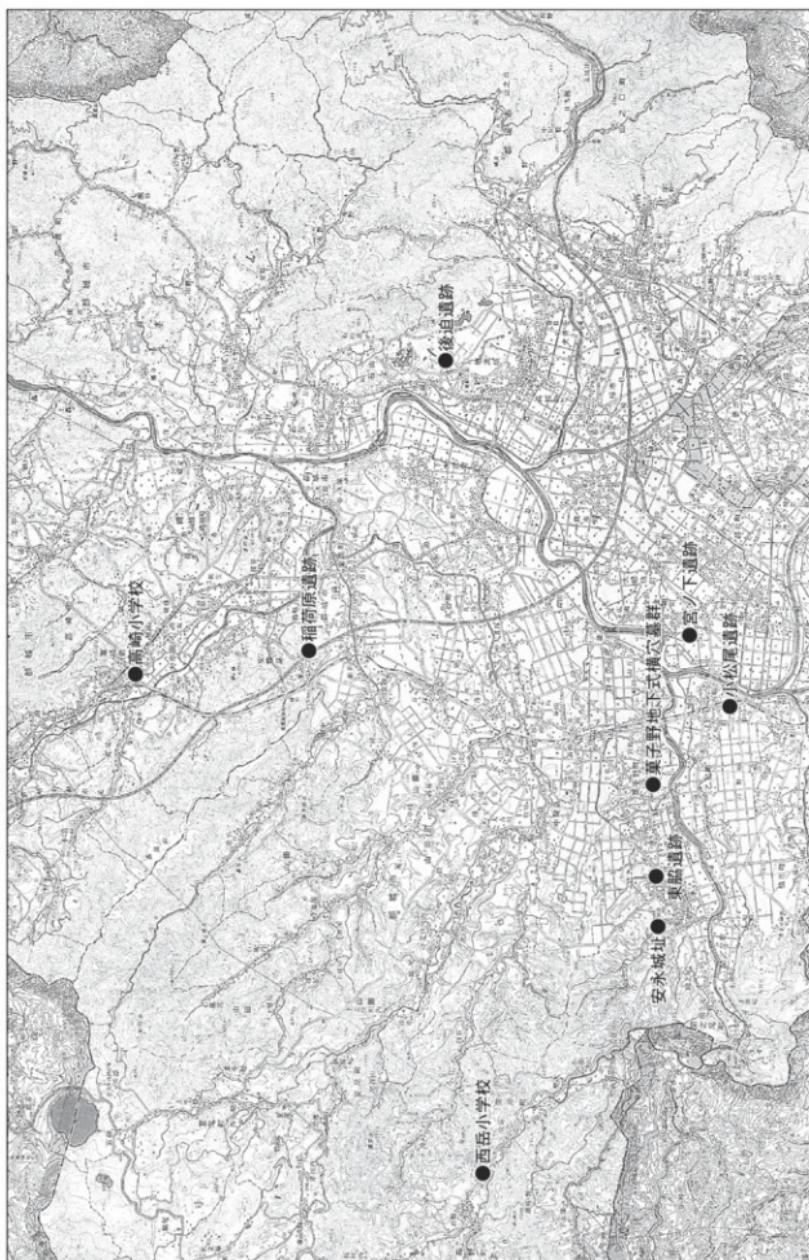
都城盆地の中央部には 1 級河川の大淀川が南から北へ支流を集めながら貫流している。盆地の東側では大淀川の支流によって開析された扇状地が発達しており、西側には比較的に起伏の少ないシラス台地が形成されている。地下水や湧水にも恵まれ、農畜産業が発達している。

当地域では霧島火山群や桜島火山をはじめとする火山群からの噴出物が数多く分布している。主なものとして、桜島文明軽石、霧島御池軽石、鬼界アカホヤ火山灰があげられる。桜島文明軽石は、桜島起源の降下軽石で文明年間（1469 ~ 1486 年）に噴出した。色調は白色から淡黄白色である。霧島御池軽石は霧島火山御池起源の軽石で、噴出年代は約 4,200 年前とされている。色調は黄白色から黄色である。鬼界アカホヤ火山灰は九州南方約 40km に位置する鬼界カルデラ起源の降下火山灰で、噴出年代は約 6,300 年前とされている。黄橙色の独特な色調から、他の堆積土層との判別が容易である。これら 3 つの火山噴出物は、堆積層厚に地域差はあるが、それぞれに特徴ある色調と都城盆地ほぼ全域に分布することから、遺跡調査の際の重要な指標となっている。

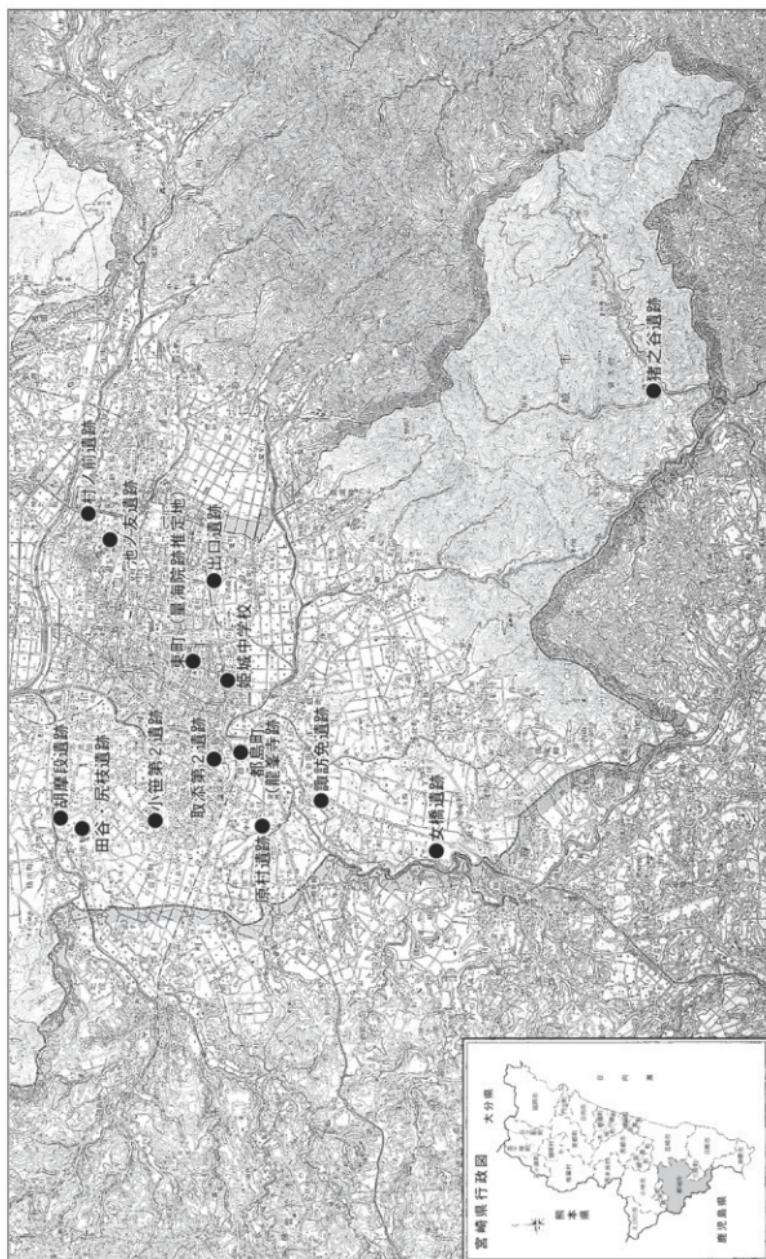
本書には、公共事業や民間開発等の各種開発事業に伴い、都城市教育委員会が国県の補助を受けて平成 23 年度に実施した下記遺跡の試掘・確認調査を報告する。

番号	遺跡名（遺跡番号）	所在地	調査原因	調査期間	調査面積
1	出口遺跡（M3005）	上長飯町 21 号 2 番 1	公有普通財産処分	2011.5.10	10m ²
2	東町 量海院跡推定地	東町 4327 外	公有普通財産処分	2011.7.4 ~ 7.8	56m ²
3	西岳小学校	美川町 2928	体育館改築	2011.7.27	12m ²
4	郷城中学校	郷城町 25-71	大規模校舎改造	2011.8.2	4m ²
5	池ノ友遺跡（M4009）	郡元町、早水町	道路改良	2011.8.16 ~ 8.18	28m ²
6	高崎小学校	高崎町大牟田 1179-1	校舎耐震補強	2011.10.6	4m ²
7	宮ノ下遺跡（M9001）	金田町	道路改良	2011.11.14	6m ²
8	菓子野地下式横穴墓群（M8066）	菓子野町 9457 番地 2	自然崩壊	2011.4.4 ~ 4.18	15m ²
9	安永城址（M8047）	庄内町 13245-22	保安林整備	2011.5.17 ~ 5.18	12 m ²
10	東脇遺跡（M8045）	庄内町 12503-4	個人住宅建設	2011.6.22	4m ²
11	稻荷原遺跡（TZ-T010）	高崎町東露島 1879 外	畜舎建設	2011.7.13	24m ²
12	小菅第 2 遺跡（M6015）	菅原町 3195-1 外	宅地分譲	2011.7.20	24m ²
13	小松尾遺跡（M8008）	乙房町 387 番 2	携帯電話基地局建設	2011.7.21 ~ 7.22	4m ²
14	都島町 龍峯寺跡	都島町 1289-2 外	神社建設	2011.8.3 ~ 8.5	27.75m ²
15	田谷・尻枝遺跡（M6005）	南横市町 3924 番 1 外	宅地分譲	2011.8.25	12m ²
16	原村遺跡（M5017）	五十町 2491-1 外	宅地分譲	2011.8.29 ~ 8.31	12m ²
17	調訪免遺跡（M5034）	今町 9021 番 1	個人住宅建設	2011.9.1	4.5m ²
18	後迫遺跡（TJ4004）	高城町穗溝坊 2094-1 外	畜舎建設	2011.9.14	26.5m ²
19	女橋遺跡（M7005）	今町 7822-4	宅地分譲	2011.9.21	4m ²
20	村ノ前遺跡（M4008）	郡元町 2758-1	宅地分譲	2011.10.3	5m ²
21	猪之谷遺跡（M7080）	安久町 3415 番 4	携帯電話基地局建設	2011.10.12	4m ²
22	胡摩段遺跡（M6004）	南横市町 4047 番 3	宅地分譲	2011.10.26	8m ²
23	取添第 2 遺跡（M5023）	都島町 519-2 外	個人住宅建設	2011.11.16	20m ²

平成 23 年度市内遺跡 試掘・確認調査地一覧表



平成 23 年度 試掘・確認調査地点位置図 (S=1/100,000)



出口遺跡（遺跡番号：M3005）

調査地 都城市上長飯町21号2番1
 調査原因 公有普通財産処分
 調査期間 2011.5.10
 調査面積 10m²（対象面積：203.6m²）
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は姫城川左岸の氾濫原に位置する。周辺は宅地開発が進んでおり、地目上は宅地となっているが、かつては耕作地として利用されていたと思われる。



調査結果

トレチ3カ所を設定し、遺構検出は霧島御池降下軽石層上面にて行った。すべてのトレチで遺構は確認できなかった。

1Tのみさらに下層まで掘り下げたが、掘削中に湧水がみられたため掘削を中止した。調査時には湧水は現地表から約1.8mで確認できたが、現地表から1m前後で地下水の影響と思われる鉄分の沈着が確認できる。

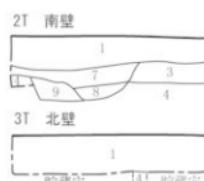
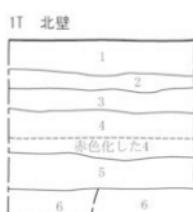
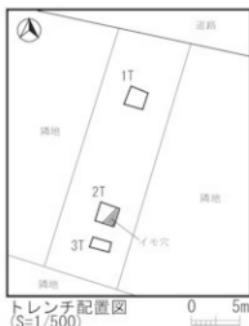
2Tでは遺構検出時に時期差のある黒色土の溝状の落込みを確認したが、埋土や掘削の状況、3Tでの遺構検出状況から、いずれも近年の耕作の際の貯蔵穴等と確認できた。2Tからは、近世以降の陶磁器の小片2点が出土している。

3Tでは、ほぼ全面で近年の耕作による攪乱を受けていた。

まとめ

遺構は確認できず、遺物の出土もごく少数であるため、当該地に遺跡が残存する可能性は低い。

ただし、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、文化財保護法93条1項または94条1項に基づいて関係書類を提出する必要がある。



- 1: 暗オリーブ褐色砂質シルト (5mm以下の黄色軽石、白色軽石をまんべんなく含む)
- 2: 黒褐色シルト (2mm以下の黄色軽石を僅かに含む)
- 3: 黑褐色シルト (2mm以下の黄色軽石を多量に含む)
- 4: 1cm以下の黄色軽石＝霧島御池降下軽石
- 5: 黒色粘質シルト
- 6: 黄褐色火山灰＝鬼界アカホヤ火山灰
- 7: 黑褐色シルト (2mm以下の黄色軽石をまばらに含む)
- 8: 黑褐色シルト (2mm以下の黄色軽石をごく僅かに含む)
- 9: 黑褐色シルト (黄色軽石ブロックをまんべんなく含む)



トレチ土層断面図 (S=1/50)

東町（量海院跡推定地）

調査地 都城市東町 4327 外
 調査原因 公有普通財産処分
 調査期間 2011.7.4 ~ 7.8
 調査面積 約 56m² (対象面積: 3,817.77m²)
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は幕末の絵図では量海院とされている。量海院は都城島津家 10代時久室の菩提寺として建立されたが、1867 年廃寺となり、その後は墓地となっていた。墓地整理条例に基づき、大正末から昭和初期に現在の市営墓地に改葬されたことが、当時の新聞等で確認できる。その後、農協関連施設や国施設として利用され現在に至る。

調査結果

トレチ計 11 力所を設定した。遺構検出は霧島御池軽石上面にて行った。

1・4aT・9・10T を除くトレチで改葬済の墓坑と思われる遺構を確認した。4bT では棺として使用されていたと思われる大型の甕が 2 個体分出土している。内 1 個は完形を留めていたと思われるが、掘削時に破損した。完形甕は横転した状態で出土しており、改葬後に遺棄したものと思われる。口縁付近から微量の骨片が出土したが、形状から獸骨の可能性もある。完形甕周辺からは銅製のキセルも出土している。8T では改葬墓坑内から釘状の鉄製品が出土している。

4aT では時期不明の溝状遺構を検出したためトレチを拡張し、さらに走向確認のために 4bT を設定した。4bT でも溝状遺構を検出したが、上記の完形甕を伴った改葬墓坑に切られていた。溝状遺構内からの遺物の出土はなく時期は不明である。

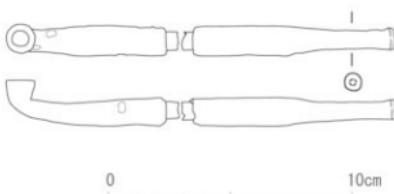
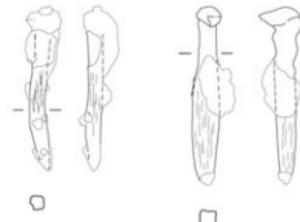
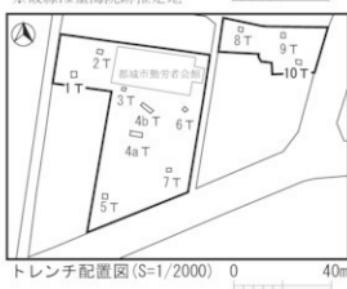
中近世の遺物包含層となりうる層が確認できたのは 3T のみであり、数次に及ぶ開発で、霧島御池軽石層より上面について削平を受けていると推測される。

まとめ

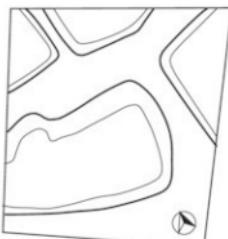
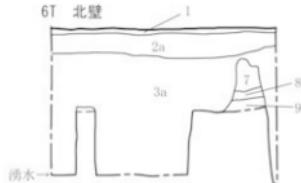
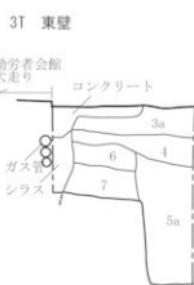
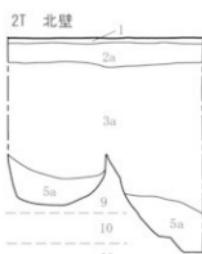
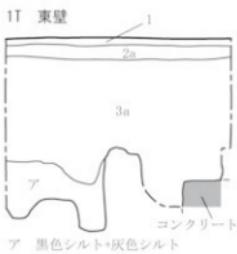
トレチ内で確認できた墓坑状の遺構はすべて改葬済であった。それら改葬墓坑に先行する溝状遺構については、走向は確認できたが、残存状況は悪い。4bT 以北では労働者会館建設時に、4aT 以南では旧税部署の建物により破壊されていると思われる。

開発予定地全域に分布すると思われる近世～近代の墓坑については、すべて改葬されていると推測される。それら墓坑群に先行する溝状遺構については、残存推定範囲内の走行確認を行っている。

よって、当該開発予定地について、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査等は必要としない。



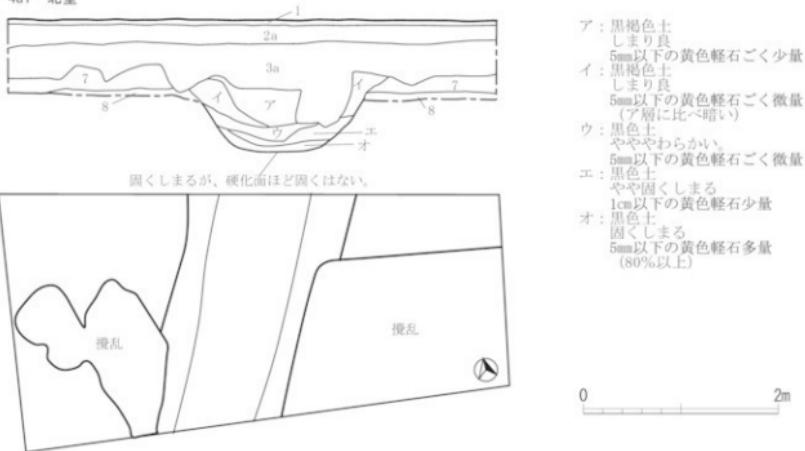
出土遺物実測図



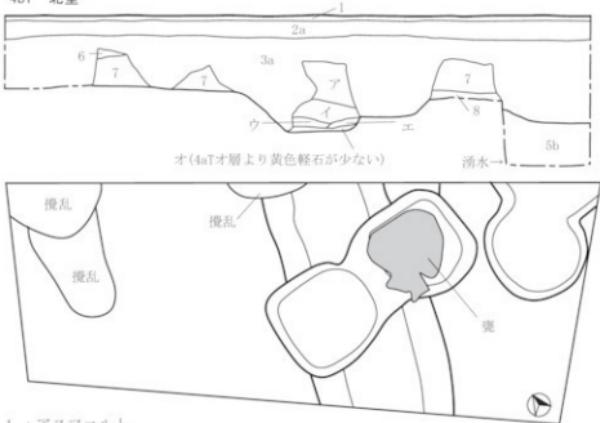
- 1 : アスファルト
 2a : 10cm以下の砂利
 2b : 1cm以下の砂利+灰色砂質土
 3a : 灰色リーフ砂質シルト (5mm以下の黄色軽石、黄色軽石ブロック、10cm以下の繊、瓦礫を含む) = 1~7Tの造成土
 3b : 暗灰色砂質土 (砂利・黄色軽石を含む) = 8~10Tの造成土
 4 : 暗灰褐色砂質土 (5cm以下の軽石、2mm以下の黄色軽石を含む) = 大正以降の造成土
 5a : 暗灰褐色砂質土 (10cm以下のブロック状の黄色軽石・黒色土ブロック・5cm以下の軽石・黄色軽石含む)
 =墓地改修時の埋土
 5b : 黒褐色砂質土 (15cm以下のブロック状の黄色軽石を含む) = 墓地改修時の埋土
 6 : 暗灰色砂質土 3mm以下の白・黄色軽石ごく微量 (近世~近代)
 7 : 黒色土 1mm程度の黄色軽石ごく微量
 8 : 暗褐色土 3mm程度の黄色軽石多量。霧島御池軽石への漸移層
 9 : 霧島御池軽石
 10 : 黒色シルト
 11 : 鬼界アカホヤ火山灰

東町（量海院跡推定地） ドレンチ土層断面図・平面図① (S=1/50)

4aT 北壁



4bT 北壁

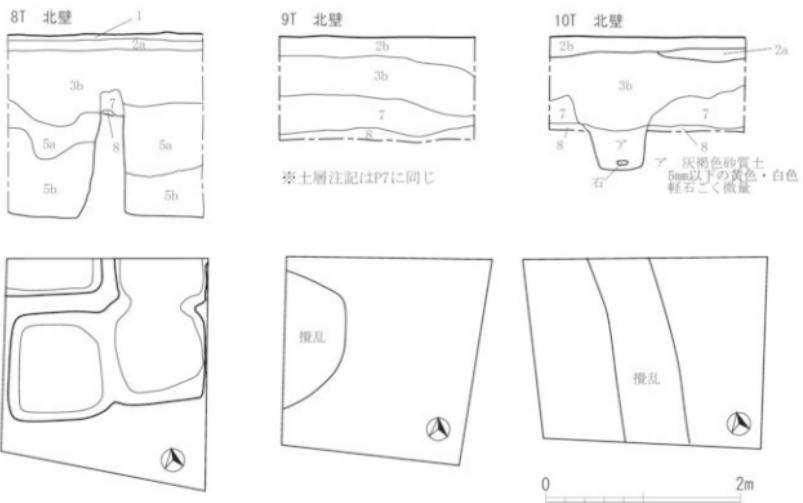


- 1 : アスファルト
- 2a : 10cm以下の砂利
- 2b : 1cm以下の砂利・灰色砂質土
- 3a : 灰オリーブ砂質シルト (5mm以下の黄色軽石、黄色軽石ブロック、10cm以下の礫、瓦礫を含む) = 1~7Tの造成土
- 3b : 暗褐色砂質土 (砂利、黄色軽石を含む)
= 8~10Tの造成土
- 4 : 暗灰褐色砂質土 (5cm以下の軽石、2mm以下の黄色軽石を含む)
= 大正以降の造成土
- 5a : 暗灰褐色砂質土 (10cm以下のブロック状の黄色軽石・黒色土ブロック・5cm以下の軽石・黄色軽石含む) = 墓地改葬時の埋土
- 5b : 黒褐色砂質土 (15cm以下のブロック状の黄色軽石を含む)
= 墓地改葬時の埋土
- 6 : 暗灰色砂質土 3mm以下の白・黄色軽石ごく微量 (近世～近代)
- 7 : 黒色土 1mm程度の黄色軽石ごく微量
- 8 : 暗褐色土 3mm程度の黄色軽石多量。霧島御池軽石への漸移層
- 9 : 霧島御池軽石
- 10 : 黒色シルト
- 11 : 鬼界アカホヤ火山灰



4bT窓 出土状況

東町（量海院跡推定地） トレンチ土層断面図・平面図②(S=1/50)



東町（量海院跡推定地）　トレンチ土層断面図・平面図③ (S=1/50)



2T 遺構検出 南から



2T 完掘 南から

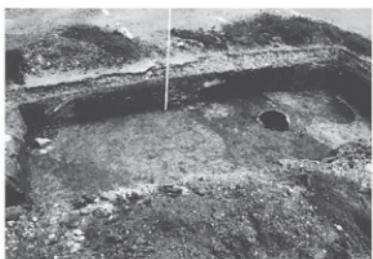


4aT拡張後 遺構検出 西から



4aT 溝状遺構完掘 南から

東町（量海院跡推定地）　調査状況1



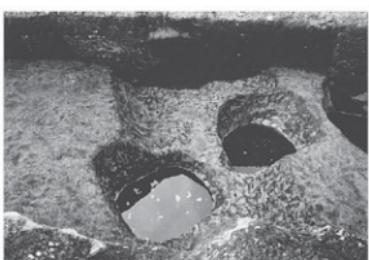
4b T 遺構検出 南から



4b T 完掘 南から



4b T 改葬墓坑完掘 南から



4b T 溝状遺構完掘 南から



6 T 遺構検出 南から



6 T 完掘 南から



8 T 遺構検出 南から



8 T 完掘 南から

東町（量海院跡推定地） 調査状況2

西岳小学校

調査地 都城市美川町 2928 西岳小学校
 調査原因 体育館改築
 調査期間 2011.7.27
 調査面積 12m² (対象面積: 1,540 m²)
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は霧島連山に連なる丘陵地に位置する。学校敷地のすぐ南には庄内川上流の千足川が流れる。

調査結果

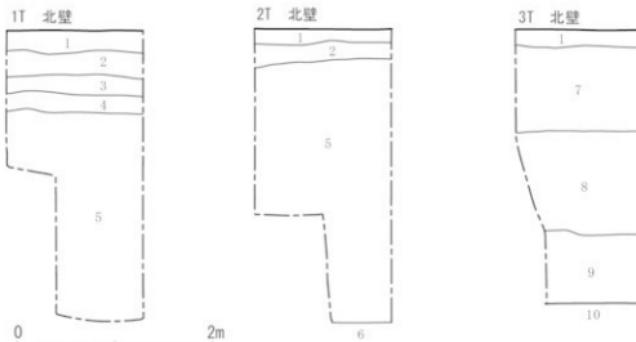
トレーンチ 3 カ所を設定した。

すべてのトレーンチで表土と造成土の下はシラスが堆積しており、最下部では砂礫層が確認できた。3T のみ下部で鬼界アカホヤ火山灰と思われる堆積が確認できだが、シラス等が混じっており、2 次堆積と思われる。造成土下のシラスについては薄く層状に堆積していることから、造成ではなく自然堆積の可能性もある。

すべてのトレーンチで、遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認できず、当該地に遺跡が残存する可能性は低い。よって、開発に際して特に支障はない。



- 1: 暗色土 2cm以下の黄色蛭石・軽石少量 造成土・現校庭の表土
- 2: 白色砂・1cm程度の橙色土ブロック・10cm程度の軽石の混層 造成?
- 3: シラス・白色砂 ラミナ状堆積
- 4: 10cm程度の橙色ブロック・黒色土ブロック・黄色蛭石・白色砂の混層 一部ラミナ状堆積
- 5: シラス・白色砂・ブロック・ラミナ状堆積
- 6: 砂礫層
- 7: シラス・白色砂・5cm程度の橙色土ブロックの混層 一部ラミナ状堆積
- 8: 白色砂・1cm程度の橙色土ブロック・10cm程度の円礫 砂礫層
- 9: 20~30cmの橙色土ブロックに白色砂・シラスが混じる 鬼界アカホヤ火山灰?
- 10: 白色砂・10cm程度の円礫・橙色土ブロックの混層 砂礫層

トレーンチ土層断面図 (S=1/50)

姫城中学校

調査地 都城市姫城町 25-71 姫城中学校
調査原因 大規模校舎改造
調査期間 2011.8.2
調査面積 4m² (対象面積: 1.758m²)
調査担当者 近沢恒典 久松亮
調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は姫城川左岸の氾濫原面から開析扇状地面に位置する。東に約 700 m、同じく姫城川左岸の開析扇状地面にある高田遺跡からは、弥生時代中期の集落跡が確認されている。

調査結果

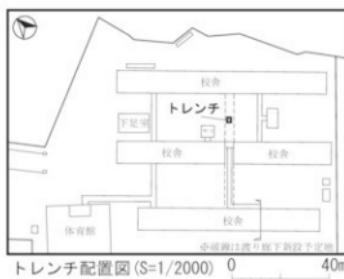
トレンチ 1 号所を設定した。

表土近くはガレキを含んだ造成土が硬くしまり、掘削が困難であった。その下に近現代の水田跡とみられる層が見られた。その下、地表から約 1.3 m 付近で鬼界アカホヤ火山灰と思われる堆積層が見られたため遺構検出を行ったが遺構は確認できなかった。アカホヤ火山灰と思われる層の堆積は極めて薄かったため、2 次堆積と思われる。トレンチの東側では、造成がこの層の直上まで及んでいた。そのままに下、地表から約 1.6 m 付近で湧水が見られたため掘削を終了した。

遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

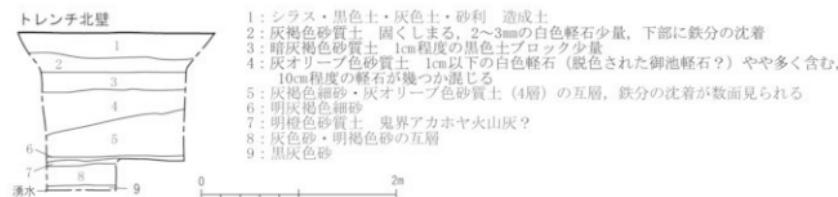
遺構・遺物は確認できず、当該地に遺跡が残存する可能性は低い。よって、開発に際して特に支障はない。



トレンチ北壁



トレンチ東壁



トレンチ土層断面図 (S=1/50)

池ノ友遺跡（遺跡番号：M4009）

調査地 都城市郡元町、早水町
 調査原因 道路改良
 調査期間 2011.8.16 ~ 8.18
 調査面積 約 28m²（対象面積：約 2,370m²）
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地周辺は一万城扇状地内に位置し、東側には地下を流れる伏流水が湧出して形成された早水池がある。そこから北西に向かって、旧河道と思われる谷地形が認められる。

西侧の早水公園整備時の発掘調査では、縄文時代早期から近世までの各時代の遺構が確認されている。東に隣接する池島遺跡では、縄文時代早期の集石遺構や弥生・中世の遺構が確認されている。北側に位置する白山原遺跡では同じく、縄文時代早期の集石遺構が確認されている。

調査結果

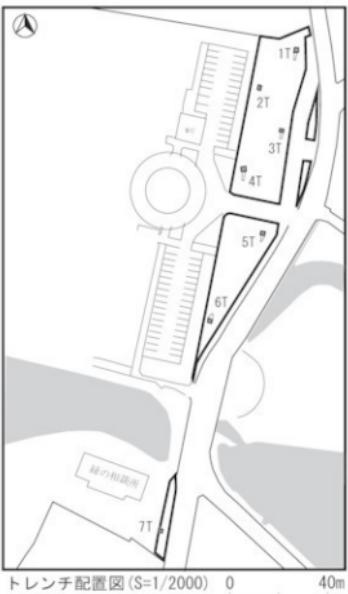
トレンチ 7 カ所を設定し、遺構検出は霧島御池軽石上面、鬼界アカホヤ火山灰上面にて行った。鬼界アカホヤ火山灰層を確認できたトレンチは、その下の縄文時代早期の包含層まで掘り下げを行ったが、湧水により精査はできなかった。

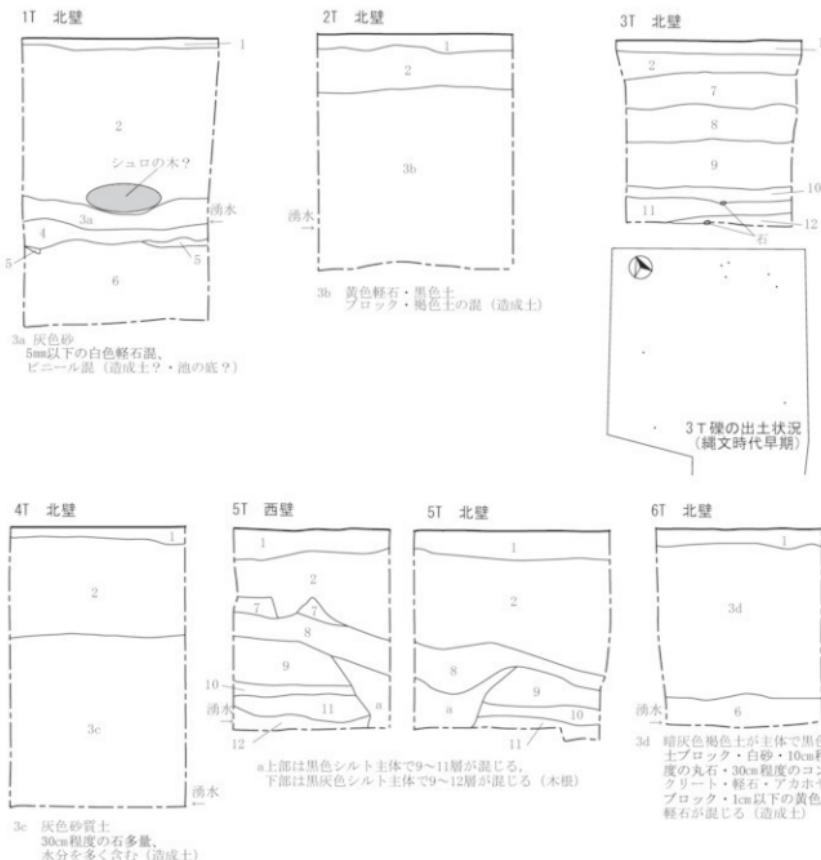
1・2・4T はすべて造成土で、地下 2 m 附近から湧水が見られた。昭和 50 年代の地図でみると池となっていたり、埋め立てにより現在の地形となったものと思われる。3T は霧島御池軽石上面まで既に削平されていたが、その下は良好に残存していた。縄文時代早期の包含層から礫数点が出土し、内 1 点からは研磨痕が確認できたが、集石遺構は形成していなかった。東側に隣接する池島遺跡につながるものと思われる。5T の土層の状態は 3T と同じであったが、遺物は確認できなかった。6T はすべて造成土であった。池ノ友遺跡の第 2 次調査の調査範囲内と思われる。7T は縄文時代早期の包含層まで掘り下げたが遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

3T にて、東側の池島遺跡との地形的なつながりが確認でき、遺物も少數ながら出土しているので、県営団地の西側区間については、鬼界アカホヤ火山灰層下（現地表から約 1.8 m）まで掘削が及ぶ場合は協議が必要となる。

他の区間についても、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、文化財保護法 94 条第 1 項に基づいて関係書類を提出する必要がある。





- 1: 灰褐色砂質土 砂利混(表土)
 2: 暗褐色砂質土 2cm以下の黄色軽石・10cm程度の石・砂利・コンクリート片混、
 上部は固くしまる(造成土)
 3: 造成土トレンチごとに別記
 4: 灰褐色砂質土 5mm以下の白色・黄色軽石ごく少量、根やや多
 5: 白色軽石 桜島文明軽石
 6: 暗灰色砂質土 5mm以下の白色・黄色軽石ごく少量、根やや多
 7: 黄色軽石 露島池軽石
 8: 黒色シルト
 9: 鬼界アカホヤ火山灰
 10: 黑灰色シルト 硬い、5mm以下の橙色軽石微量
 11: 黒灰褐色シルト 5mm以下の橙色軽石やや多(桜島P11火山灰濃集層)
 12: 暗茶褐色シルト 5mm以下の橙色軽石ごく少量

ア 暗茶褐色砂質土 1cm以下の黄色軽石多量(表土)
 イ 褐色砂質土 3cm以下の黄色軽石多量、
 黒色土ブロックわずかに含む(造成土)
 ウ 黒色土 10cm程度の石多量、固くしまる(造成土)



池ノ友遺跡 トレンチ土層図・平面図(S=1/50)

高崎小学校

調査地 都城市高崎町大牟田 1179-1 高崎小学校
調査原因 校舎耐震補強
調査期間 2011.10.6
調査面積 4m² (対象面積: 1,085m²)
調査担当者 下田代清海 久松亮
調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は高崎川によって、開削された河岸段丘面に位置する。



調査結果

渡り廊下改築予定箇所にトレンチ 1 カ所を設定し、遺構検出は霧島御池軽石層上面にて行った。

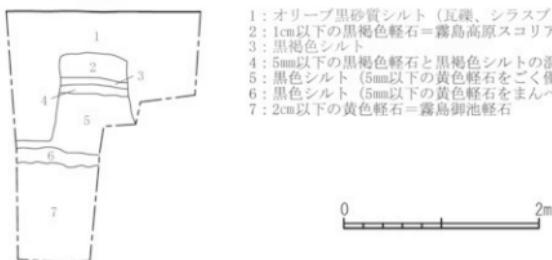
校舎建替え等の際のものと思われる瓦礫が、トレンチ設定箇所のほぼ全域に埋設されていた。その深さは現地表から約 1.3 m まで及んでいた。トレンチ南東部では地表からの深さ 50cm 付近で黒褐色の硬質の軽石が途中に黒色土を挟みながら層状に堆積していた。12 ~ 13 世紀に数次にわたり降下したとされる霧島高原スコリアと呼ばれる降下軽石と思われる。削平を受けていない部分ではその下に黒色土、霧島御池軽石と続いている。高崎町周辺では霧島御池軽石が 2 ~ 3 m 以上堆積している地域も見られることから、霧島御池軽石層を 1 m ほど掘り下げたところで掘削を終了した。

遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認できず、当該地に遺跡が残存する可能性は低い。よって、開発に際して特に支障はない。

トレンチ 南東壁



トレンチ土層断面図 (S=1/50)

宮ノ下遺跡（遺跡番号：M9001）

調査地 都市金田町
 調査原因 道路改良
 調査期間 2011.11.14
 調査面積 約 6m²（対象面積：320m²）
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地周辺は高木原扇状地の西端に位置する。北側には古代の大型建物跡が確認され、国の史跡に指定された大島畠田遺跡が、西側の児童公園整備の際には、弥生時代の竪穴住居跡や古代から中世の土師器・須恵器が出土している。

調査結果

道路拡幅予定地にトレント2カ所を設定し、遺構検出は霧島御池軽石層上面にて行った。

西側に設定した1Tは、若干の遺物と黒色土の落込みを確認したため、検出写真の撮影後に掘り下げた。その際に硬化面を検出したため、トレントの一部を拡張した。霧島御池軽石に掘り込まれ、2枚の硬化面を持ち、埋土に桜島文明軽石を含む溝状遺構と思われる遺構を検出した。

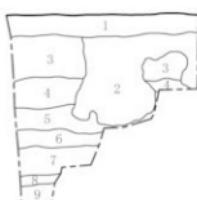
東側に設定した2Tでは、霧島御池軽石、鬼界アカホヤ火山灰の堆積を確認できなかった。地山の褐色砂質土に深く掘り込まれた掘削痕に鬼界アカホヤ火山灰、霧島御池軽石がブロック状に確認できる。かつて上層にそれらが残存していた時期に何らかの理由で深い掘削が行われ、その後耕地整備が行われ水田となり、耕作が放棄され現状に至ったと思われる。2Tでは遺構・遺物は確認されていない。

まとめ

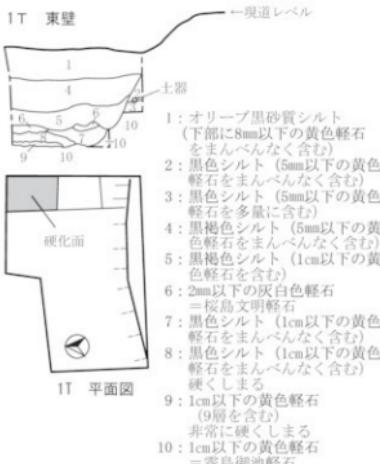
1Tにて、溝状遺構が確認され、遺物も出土しているので、西側区間については、現道から0.8m以上の掘削が及ぶ場合は協議が必要となる。

他の区間についても、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、文化財保護法94条第1項に基づいて関係書類を提出する必要がある。

2T 北壁



トレント土層断面図・平面図 (S=1/50)



0 2m

菴子野地下式横穴墓群（遺跡番号：M8066）

調査地 都城市菴子野町 9457 番地 2
 調査原因 自然崩壊
 調査期間 2011.4.4 ~ 4.18
 調査面積 15m² (対象面積: 483m²)
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 調査後に現状復旧



位置と環境

菴子野地下式横穴墓群は、庄内川左岸の河岸段丘面に分布している。同じ段丘面には県指定の円墳が点在していたが、現在は削平され指定も解除されている。

昭和 55 年以降、道路改良や自然崩落により 14 基の地下式横穴墓が発見・調査されている。今回が調査した「菴子野地下式横穴墓 2011-1 号墓」が 15 基目となる。今回調査した水田では、昭和 59 年度に 3 基の地下式横穴墓が発見・調査されている。

調査結果

耕作中に発見された陥没孔周辺にトレーンチ 6 力所を設定して竪坑検出を行った。その際に昭和 59 年度に調査した 59-2 号墓の一部を検出したため、今回調査する地下式横穴墓との位置関係確認のため、59-2 号墓の平面プラン確認もあわせて行った。

今回調査した地下式横穴墓は、漢道上部が陥没しており、玄室内は流れ込んだ土砂が天井近くまで堆積していた。竪坑は直径約 1m の円形で深さ約 80cm、漢道は幅約 40cm、長さ約 50cm、両袖平入りの玄室は長軸約 1.5m、短軸約 0.5m の楕円形ドーム状である。閉塞は、塗り込めた様な不定形の黒色粘質土ブロックで行われていた。副葬品は検出されなかつたが、人骨 1 体が頭位を東に向けた状態で検出した。身長 145cm 程度の壮年女性と推測される。なお、人骨の取り上げと分析は、鹿児島女子短期大学竹中正巳教授に依頼した。

調査期間中の 4 月 11 日に菴子野小学校の児童を対象とした見学会を行った。そのため 59-2 号墓を再掘削したところ、玄室内、頸蓋骨検出地点付近の床面から刀子と思われる鉄製品 1 点が出土した。

調査後は、崩落を防ぐため玄室内にシラスを充填し、埋め戻しを行った。

まとめ

菴子野地下式横穴墓 2011-1 号墓は、副葬品を伴わないため単独での年代特定は困難であるが、人骨の保存状態が比較的良好く、また、周囲で確認されている地下式横穴墓群と比較検討することでも多くの知見を得ることができる。

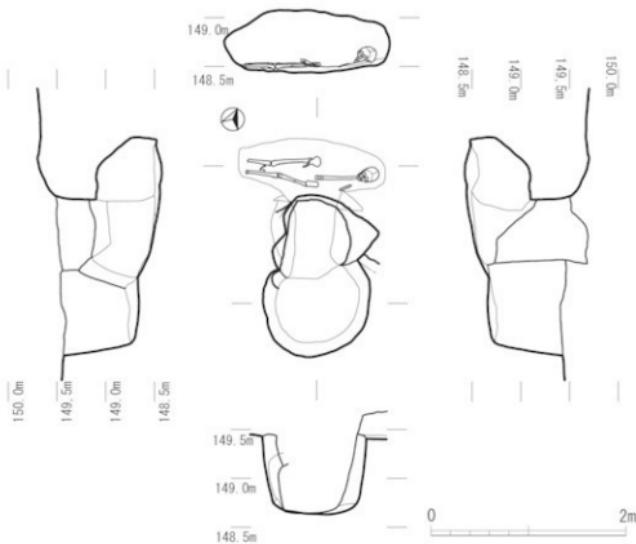
今回の調査期間中に簡易な形ではあったが、地元の小学生を対象に出土人骨がある状態で見学会を開催した。その様子が広く報道されたことは、歴史教育の一助となるだけでなく、広く市民への普及広報活動としても意義があった。



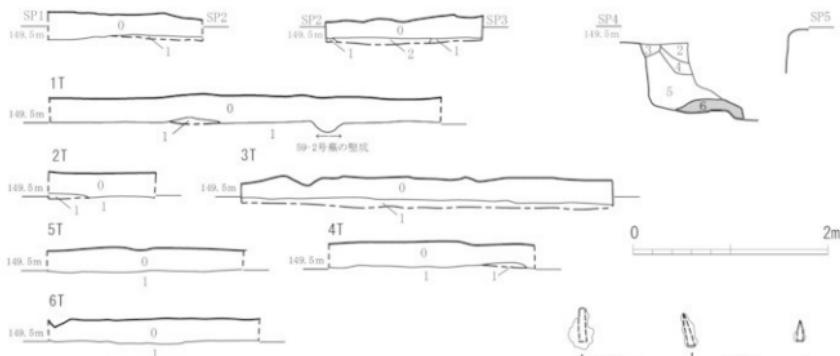
トレンチ配置図
及び 59-1、2、3 の位置相関図 (S=1/500)
※59-1、59-3については
昭和59年度の調査成果
と合成



土層観察ポイント及び 59-2 号墓遺物出土地点 (S=1/100)



菫野地下式横穴墓2011-1号墓実測図 (S=1/50)



0 : 黒褐色シルト (5mm以下の黄色軽石をごく少量含む)

1 : 全体に鉄分の沈着あり = 現耕作土

1 : 暗褐色シルト (5mm以下の黄色軽石を多量に含む)

2 : 暗褐色土 (5mm以下の黄色軽石をきわめて多量に含む) 硬くしまる

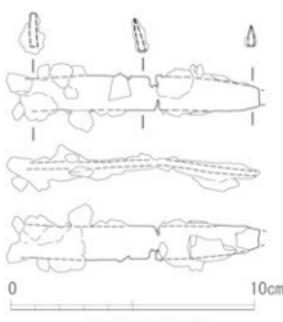
3 : 暗褐色土 (5mm以下の黄色軽石を多量に含む)

4 : 暗褐色土 (5mm以下の黄色軽石をやや多く含む)

5 : 5mm以下の黄色軽石 (黒褐色シルトをすじ状に含む)

6 : 黒色シルト (5mm以下の黄色軽石を僅かに含む) = 閉塞ブロック

豊坑及び豊坑上部、豊坑検出用の土層断面図 (S=1/50)



出土遺物実測図



豊坑検出1 南から



豊坑検出2 南から



豊坑の半截



閉塞状況



人骨の検出状況1



人骨の検出状況2



人骨の検出状況3



人骨の検出状況4

菫子野地下式横穴墓 調査状況1



豊坑完掘



美道完掘



玄室完掘



完掘



見学会のため再掘削した59-2号墓 南から



59-2号墓 遺物出土



59-2号墓 遺物出土状況 拡大



調査後（奥に見えるのが菫子野小学校） 南より

菫子野地下式横穴墓 調査状況2

宮崎県都城市菓子野地下式横穴墓群 2011-1 号墓出土の古墳時代人骨

鹿児島女子短期大学
竹中正巳

2011 年 4 月、宮崎県都城市菓子野地下式横穴墓群 2011-1 号墓が発掘調査され、玄室内からは、人骨 1 体が出土した。人骨の保存状態はよくない。人骨の遺存状況を図 1 に、遺存している頭蓋および下肢の写真を図 2 に示す。赤色顔料は人骨に付着しておらず、玄室の人骨周囲でも確認できなかった。人骨の出土状況から仰臥伸展位で埋葬されていたと判断できる。手の指の骨が右寛骨上に遺存していた。

出土した人骨の性別は、眉弓の突出が弱いことから女性と判断される。観察できる頭蓋縫合の中で前頭縫合、矢状縫合の内板が癒合しており、外板は癒合していない。また、歯の咬耗が Martin の 2 度であることから、年齢は、壮年後期と推定できる。歯の歯式は次の通りである。

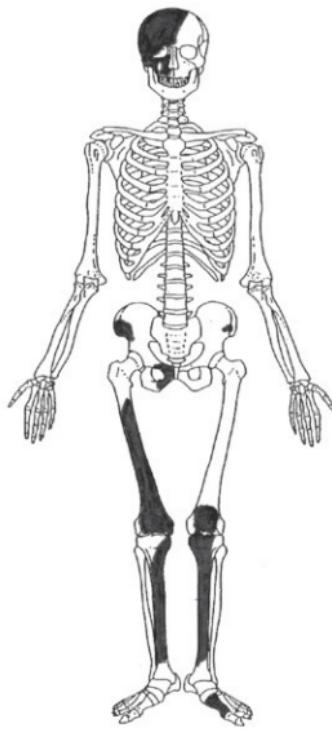
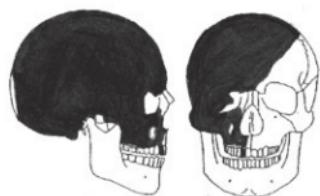
●● 6 5 4 ○ 2 1	1 2 × × × × × ×
× × 6 5 4 3 2 1	○ 2 3 4 5 × × ×

●：歯槽閉鎖 ○：歯槽開存

・：遊離歯

観察できた歯には、う蝕やエナメル質減形成は認められない。

頭蓋および四肢骨の計測値および示数を表 1、3、4 に、頭蓋形態小変異の出現の有無を表 2 に示す。頭蓋のバジオン・プレグマ高、頭蓋長高示数は大きい。オトガイ高は小さい。四肢骨は、右大腿骨に弱い柱状形成が認められる。また、脛骨は扁平脛骨である（表 4）。



・体幹体肢骨の保存状態

	頸椎	
	胸椎	
	腰椎	
	仙骨	
	尾骨	
脊柱		
	胸骨	
胸郭	肋骨	

	R	L
上肢	肩甲骨	
	鎖骨	
	上腕骨	
	橈骨	
	尺骨	
	手根骨	
	中手骨	
	指骨(指)	

	R	L
下肢	寛骨	△ ×
	大腿骨	○ ○
	膝蓋骨	○ ○
	脛骨	○ ○
	腓骨	
	足根骨	
	中足骨	△
	指骨(足)	△

図1. 菴子野地下式横穴墓群 2011-1号墓出土人骨の遺存状況

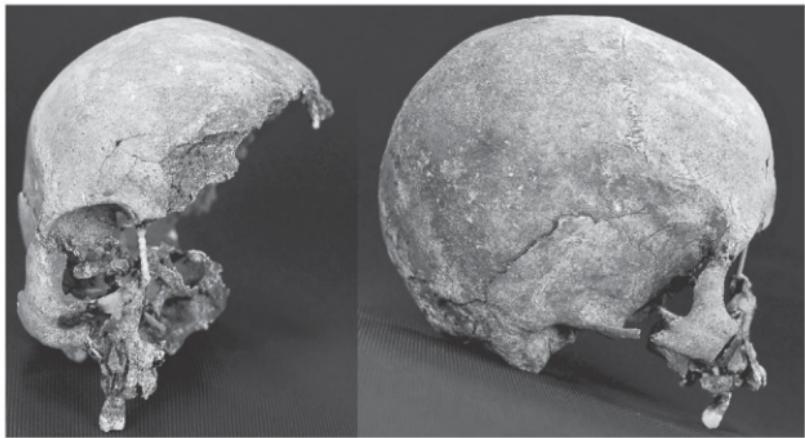


図2. 葉子野地下式横穴墓群 2011-1号墓出土の壮年後期女性人骨（上：頭蓋 下：下肢）

表 1. 菓子野地下式横穴墓群出土人骨の
頭蓋計測値 (mm) 及び示数

M No.	人骨番号	菓子野 2011-1
	性別	女性
	年齢	壯年後期
1	頭蓋最大長	172
17	バシエ・フレグ高	132
3	ケヘロマガ長	170
27	正中矢状頭頂弧長	124
30	正中矢状頭頂弦長	113
17/1	頭蓋長高示数	76.7
30/27	矢状頭頂示数	91.1
45	頸骨弓幅	((146))
46	中頸幅	((90))
69	朴加有高	28

表 3. 菓子野地下式横穴墓群出土人骨の
大腿骨計測値 (mm) 及び示数 (続き)

大腿骨 M No.	人骨番号	菓子野 2011-1
	性別	女性
	年齢	壯年後期
6	骨体中央矢状径	左 右 26
7	骨体中央横径	左 右 25
8	骨体中央周	左 右 80
6/7	骨体中央断面示数	左 右 104.0

表 4. 菓子野地下式横穴墓群出土人骨の
脛骨計測値 (mm) 及び示数

脛骨 M No.	人骨番号	菓子野 2011-1
	性別	女性
	年齢	壯年後期
8	中央最大径	左 右 32 31
9	中央横径	左 右 21 21
10	骨体周	左 右 82 80
8a	栄養孔位最大径	左 右 34 33
9a	栄養孔位横径	左 右 22 22
10a	栄養孔位周	左 右 86 86
10b	骨体最小周	左 右 72 71
9/8	中央断面示数	左 右 65.6 67.8
9a/8a	栄養孔位断面示数	左 右 64.7 66.7

表 2. 菓子野地下式横穴墓群出土人骨の
頭蓋形態小変異の出現状況

人骨番号	菓子野 2011-1
性別	女性
年齢	壯年後期
右	左
ラムダ小骨	-
ラムダ縫合骨	-
横後縫合痕跡	-
アステリオン小骨	-
後頸乳突縫合骨	-
頸頂切痕骨	-
前頸縫合残存	-
眼窩上神経溝	- +
眼窩上孔	+
前頸孔	-
二分頸骨	-
横頸骨縫合痕跡	-
口蓋隆起	-
内側口蓋管骨橋	-
外側口蓋管骨橋	-
歯槽口蓋管	-
後頸顆前結節	-
第3後頸顆	-
後頸顆旁突起	-
舌下神経管二分	-
外耳道骨瘤	-
フュケル孔	-
ペサリウス孔	+
卵円孔形成不全	-
棘孔開裂	-
翼棘孔	-
下頸隆起	-

安永城址（遺跡番号：M8047）

調査地 都城市庄内町 13245-22
調査原因 保安林整備
調査期間 2011.5.17 ~ 5.18
調査面積 12m²（対象面積：8,732m²）
調査担当者 葦畠光博 近沢恒典
調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は中世城郭である安永城址内にあり、「金石城」と称される曲輪の南縁に位置している。「金石城」曲輪の大部分は、平成3年の発掘調査後に、土砂採取のため削平されている。

今回の事業予定地は、保安林に指定されているため保全区域として現状保存されていた、崖面中位の平坦面及び台地上面、切り立った崖面に大別される。

調査結果

崖面中位の平坦面ではトレンチ2カ所を設定した。1Tでは1.4m以上の造成土が確認された。そのため1T周辺の平坦面は、人工的に造り出された平坦面と考えられる。遺物が出土していないため構築時期は不明である。2Tでは表土直下はシラスとなっていた。

台地上面ではトレンチ3カ所を設定した。3~5T共に表土直下は御池軽石層となる。いずれも耕作等により大きく搅乱されていた。3Tではごく浅いピット2基が確認され、その内の1基には根石が残されていた。

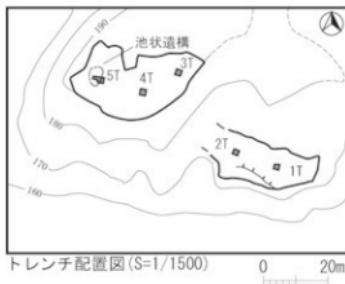
5Tでは西側に向かう落ち込みが確認された。落ち込み部は御池軽石層を約70cm堆下げて形成される。埋土の最下部には中世のものと考えられる黒褐色シルト層（4層）が堆積し、その上位には桜島文明軽石層が観察された。伝承にある応仁年間（15世紀後半）の築城当初の遺構の可能性も考えられる。

遺物は表採や現表土層より弥生土器と染付が数点出土した。

まとめ

耕作などによる削平・搅乱の影響を大きく受け、破壊が進行しているものの、若干の遺跡が残存していると考えられる。

開発事業者より、平成23年5月25日付けで文化財保護法93条1項の届出がなされ、宮崎県教育委員会は同年5月31日付けで工事立会が必要な旨を通知した。6月22日より実施した工事立会において、5T周辺に池状の落込みが確認されたため、その範囲を記録した。



1T 東壁



2T 北壁

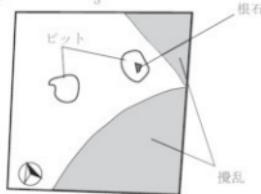
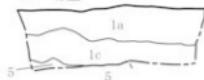


0

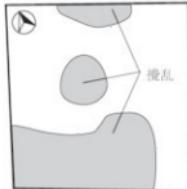
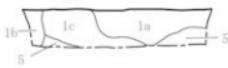
2m

- 1: 黄褐色砂質土 シラス・砂利混じり。樹根多量。(現代の造成土)
 2: 茶褐色砂質土 黄色軽石ごく微量
 3: 黄褐色砂質土 黄色・白色軽石微量。1cm以下の石ごく微量
 4: 明黄褐色砂質土 1cm以下の黄色・白色軽石微量。5mm以下の石ごく微量
 5: 6層に4層がブロック状に混じる。
 6: 棕褐色砂質土 1cm以下の黄色・白色軽石ごく微量。1mm程度の橙色・白色粒微量
 7: シラス
 ※ 2~6層は全体的に樹根多し。中世?の造成か?

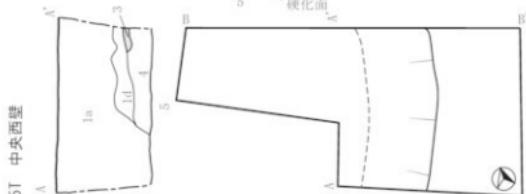
3T 北壁



4T 北壁



5T 北壁



- 1a: 棕灰色砂質土 1cm以下の黄色軽石含む。樹根多数。
 1b: 灰オーリーブ砂質土 2cm以下の黄色軽石含む
 1c: 黄色軽石+褐灰色土の互層
 1d: 2cm以下の黄色軽石主体。崩れやすい。
 2: 黒色シルト 1cm以下の黄色軽石含む。
 3: 1cm以下の白色軽石(桜島文明軽石?)
 4: 黄褐色シルト 1cm以下の黄色軽石含む。比較的よくしまる。(中世の造成?)
 5: 御池軽石 3cm以下の黄色軽石+岩片
 ※ 1a~d層は現代の造成土・擾乱。

安永城(金石城)址 トレント断面図(S=1/50)



5T拡張部 遺構検出



5T拡張部 完掘

東脇遺跡（遺跡番号：M8045）

調査地 都城市庄内町 12503-4
 調査原因 個人住宅建設
 調査期間 2011.6.22
 調査面積 4m²（対象面積：297.52m²）
 調査担当者 久松亮
 調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は庄内川左岸の河岸段丘面に位置する。周辺では中～近世の遺跡の調査事例が多い。



調査結果

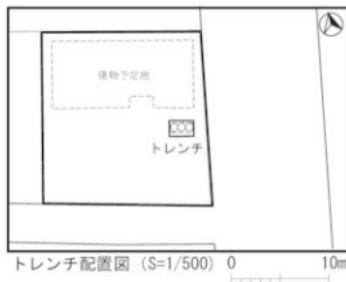
浄化槽設置予定箇所にトレーナー 1 号所を設定した。造構検出は霧島御池軽石層上面と鬼界アカホヤ火山灰層上面にて行った。表土下の造成土から比較的大きな縄文時代晚期頃の土器片が出土し、霧島御池軽石直上からは、かなり大きな土器片や石器が出土している。

造構は確認できず、断面観察からは、霧島御池軽石層の堆積層上部まで削平を受けていることが確認できた。

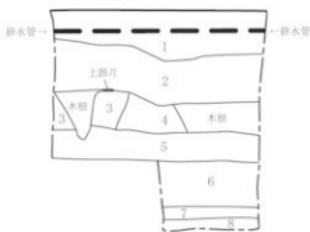
まとめ

造構は確認できず、唯一、造成土下まで掘削が及ぶ浄化槽設置箇所については先掘している。

開発事業者より、平成 23 年 6 月 24 日付けで文化財保護法 93 条 1 項の届出がなされ、宮崎県教育委員会は同年 6 月 29 日付けで慎重に施工する旨を通知した。



トレーナー北壁



- 1: オリーブ黒砂質シルト
 (2cm以下の黄色軽石、5mm以下の白色軽石ブロック、瓦礫を含む)
- 2: 黒褐色シルト (1cm以下の黄色軽石をまばらに含む)
- 3: 2cm以下の黄色軽石＝霧島御池軽石
- 4: 暗色がかった3
- 5: 黒色粘質シルト
- 6: 黄褐色火山灰＝鬼界アカホヤ火山灰
- 7: 青褐色火山灰＝霧島牛のすねテフラ
- 8: 暗色シルト (5mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)

0 2m

トレーナー土層断面図 (S=1/50)



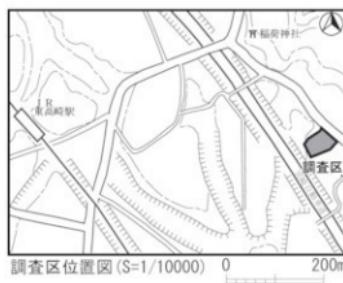
出土遺物実測図

福荷原遺跡（遺跡番号：TZ-T010）

調査地 都城市高崎町東霧島 1879 外
 調査原因 畜舎建設
 調査期間 2011.7.13
 調査面積 24m²（対象面積：4,985m²）
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は東霧島丘陵群に位置する。周辺の露頭では、3mを超える霧島御池軽石の堆積が観察できる。



調査結果

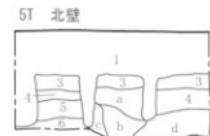
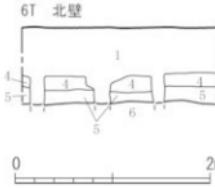
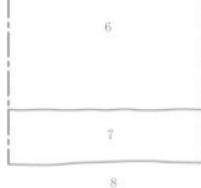
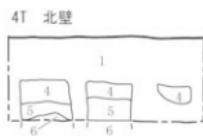
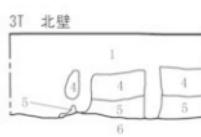
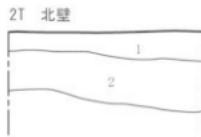
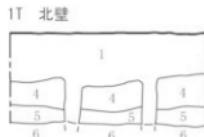
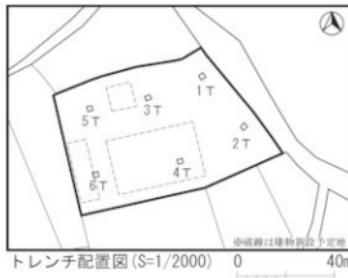
トレーニング 6カ所を設定した。遺構検出は霧島御池軽石層上面にて行った。2Tのみ鬼界アカラホヤ火山灰層上面まで掘り下げた。

すべてのトレーニングでゴボウ等の作付によると思われる掘削が霧島御池軽石上面まで及んでいた。2Tでは霧島御池軽石への漸移層が確認できないため、耕地整備の際の面掘削が霧島御池軽石上面まで及んでいたものと思われる。

すべてのトレーニングで、遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法 93 条 1 項の届出が必要となる。



- 1: 灰褐色砂質土（耕作土） 1cm以下の黄色軽石混
- 2: 灰褐色砂質土（天地返し） 1層に多量の黄色軽石
- 3: 暗褐色砂質土 5mm以下の黄色軽石ごく微量
- 4: 黑褐色土 1cm以下の黄色軽石ごく少量
- 5: 暗褐色土 1cm以下の黄色軽石やや多
- 6: 霧島御池軽石 1~5cmの黄色軽石
- 7: 黒色シルト
- 8: アカラホヤ火山灰

トレーニング土層断面図 (S=1/50)

小笠第2遺跡（遺跡番号：M6015）

調査地 都城市蓑原町 3195-1 外
 調査原因 宅地分譲
 調査期間 2011.7.20
 調査面積 24m²（対象面積：2,341m²）
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は蓑原台地のほぼ中央に位置するが、すぐ南側には水源地と浸食谷がみられる。



調査結果

トレーニング 6カ所を設定した。遺構検出は霧島御池軽石層上面にて行った。4T・6Tのみ鬼界アカホヤ火山灰層上面でも遺構検出を行い、さらにその下の縄文時代早期の包含層まで掘り下げた。

すべてのトレーニングで、ゴボウ等の作付によると思われる掘削が霧島御池軽石上面付近まで及んでいた。

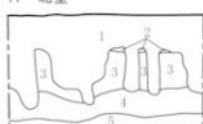
遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

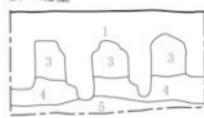
遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法 93条1項の届出が必要となる。



1T 北壁



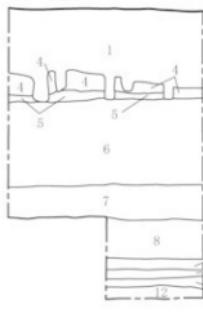
2T 北壁



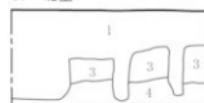
3T 北壁



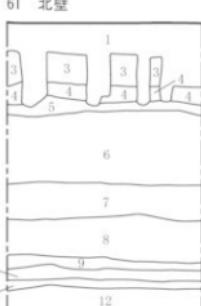
4T 北壁



5T 北壁



6T 北壁



0

2m

1: 暗灰色砂質土 1cm以下の黄色軽石混 耕作土

2: 霧島文明軽石

3: 黒褐色土 5mm以下の黄色軽石ごくわずか

4: 黒褐色土 1cm以下の黄色軽石少量 下部ほど多い

5: 褐色土 1cm以下の黄色軽石多量 御池軽石漸移層

6: 霧島御池軽石

7: 黒色シルト

8: 鬼界アカホヤ火山灰

9: 黒灰色シルト 硬質 1cm以下の橙色軽石微量

=霧島牛のすねテフラ

10: 黒色シルト 5mm以下の橙色軽石少量

=霧島11テフラ濃集層

11: 暗茶褐色シルト 1cm以下の橙色軽石多量

=霧島11テフラ濃集層

12: 暗茶褐色シルト 5mm以下の橙色軽石ごく微量

トレーニング土層断面図 (S=1/50)

小松尾遺跡（遺跡番号：M8008）

調査地 都城市乙房町 387 番 2
 調査原因 携帯電話基地局建設
 調査期間 2011.7.21 ~ 7.22
 調査面積 4m² (対象面積: 43.56m²)
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手



位置と環境

対象地は、月野原台地東側に形成された河岸段丘面上に位置する。台地上には水田が広がり、対象地の北側約 250 m に位置する乙房神社には、豊饒祈願の田の神像が鎮座している。

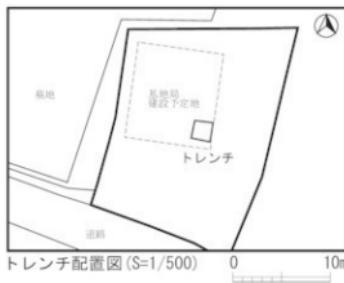
調査結果

トレンチ 1 所を設定し、遺構検出は霧島御池軽石層上面、及び鬼界アカホヤ火山灰の上面にて行った。竹根が非常に多く、霧島御池軽石層上面まで竹根により土壤が攪拌されていた。また、霧島御池軽石の堆積が 1.5 m を超えていた。

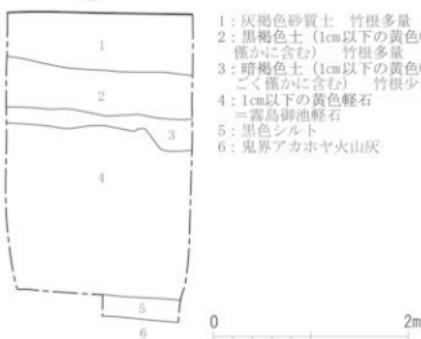
遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法 93 条 1 項の届出が必要となる。



トレンチ北壁



都島町（龍峯寺跡）

調査地 都城市都島町 1289-2 外
調査原因 旭丘神社祖靈社建設
調査期間 2011.8.3 ~ 8.5
調査面積 27.75m² (対象面積: 3,117.84m²)
調査担当者 桑畠光博 近沢恒典
調査後の措置 事業着手

位置と環境

対象地は、養原台地の東側に形成された河岸段丘面に位置する。中世城郭の都城跡に南側に隣接する中近世寺院跡である龍峯寺跡内に含まれると思われる。



調査結果

西側の建物建築予定地を中心として、トレンチ7カ所を設定した。遺構検出は霧島御池軽石より上位面を中心に行なった。

地形は西から東に緩やかに傾斜しており、東端部では後述するように霧島御池軽石の堆積が確認されなかった。

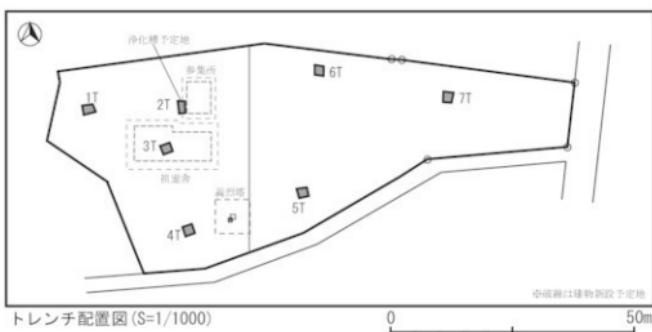
西側の1~4Tでは、近現代の擾乱が著しい4Tを除くと、1~3Tの霧島御池軽石上面において、中世及び近世の遺構を確認することができ、それらに伴い、陶器などの遺物も出土した。

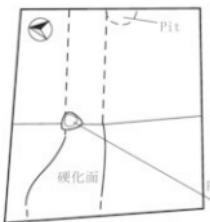
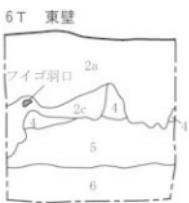
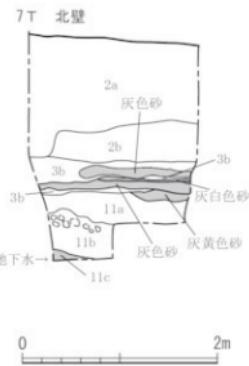
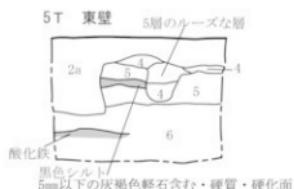
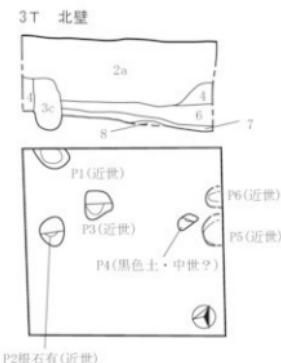
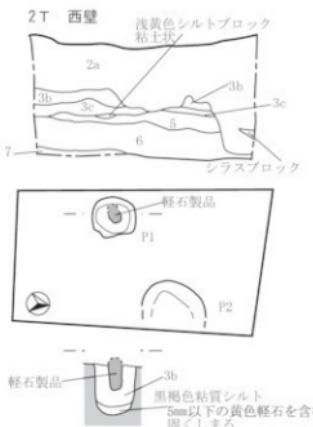
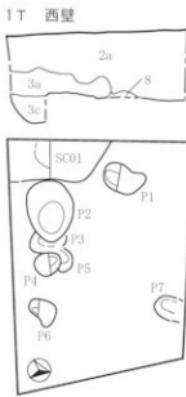
1・2Tで検出したしつかりとした掘り込みのビットは掘立建物跡の柱穴と思われる。調査範囲が狭かつたため、建物の平面プランと規模などは把握できなかつたが、寺院跡に関連する建物跡の可能性がある。2Tのビット1内に立位に埋め込まれた軽石には、加工痕が観察され、男根状石製品であることが判明した。何らかの祭祀遺構である可能性もある。5・6Tでは、霧島御池軽石上位に堆積する黒色土が厚く堆積しており、中近世の遺物だけでなく、平安時代の土師器と須恵器も出土した。5Tでは、中世前期以前の道路（硬化面）と16世紀代の土師器の埋納されたビットも検出された。7Tは、埋め立て土が厚く堆積しており、トレンチ最下部には灰白色のシルト・粘土が確認され、その上位には洪水堆積物である砂層が幾重にも堆積していた。この地点の鬼界アカホヤ火山灰や霧島御池軽石は、浸食により削剥されているものと思われる。

まとめ

近現代以降の擾乱を受けている4T周辺の一部、及び旧氾濫原と思われる対象地の東端部を除くと、おおむね遺跡が残存していることが判明した。

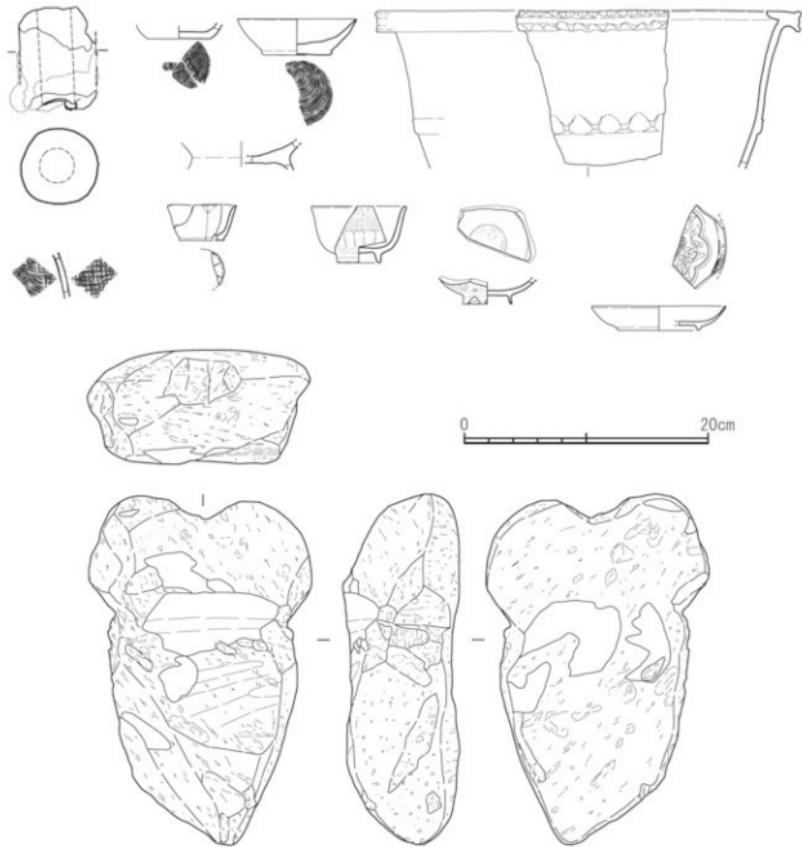
対象地の西側には中近世の寺院跡に関連する遺構が存在する可能性もあり、現地表面から60cm以上の掘削を伴う工事については、遺構に影響を及ぼす可能性があるため、工事に先立つてその取扱について協議が必要である。





- 1 : 今回の造成に伴うシラス盛土
- 2 : 現代の擾乱、掘削痕の土
- 2a : 緩灰色砂質シルト (1cm以下の黄色・白色軽石含む)
- 2b : にぶい褐色砂質シルト (大型の軽石縫合む)
- 2c : 褐色弱粘質シルト (3cm以下の白色軽石含む)
- 3 : 褐色系の近世への土
- 3a : 褐灰色砂質シルト (1cm以下の黄・白色軽石含む)
- 3b : 黑褐色粘質シルト (5mm以下の黄・白色軽石含む)
- 3c : 灰褐色粘質シルト (1cm以下の黄・白色軽石含む)
- 4 : 黑褐色系の中世後期～近世の土 (白ボラが入る) 黑灰色砂質シルト (5mm以下の白色軽石 (桜島文明軽石?) 含む)
- 5 : 黑色粘質シルト系の古代～中世前期の土 (黒ボク上層) 黑褐色シルト (1cm以下の黄色軽石少量含む)
- 6 : 黑色シルト系の土 (黒ボク下層) 黑褐色シルト (1cm以下の黄色軽石含む)
- 7 : 露島御池軽石への漸移層 黑褐色微砂質シルト (1cm以下の黄色軽石多く含む)
- 8 : 2cm以下の黄色軽石 = 露島御池軽石
- 9 : 黒ニガ・黒ボク土 黑色粘質シルト
- 10 : 黄褐色火山灰 地界アカホヤ火山灰
- 11 : 灰白色粘土・シルト
- 11a : 灰色シルト (1cm以下の白色軽石含む)
- 11b : 灰白色粘土
- 11c : 灰白色砂

都島町 (龍峯寺跡) トレンチ土層断面図・平面図 (S=1/50)



都島町（龍峯寺跡）出土遺物実測図



2T ピット半截



3T ピット半截

都島町（龍峯寺跡）調査状況

田谷・尻枝遺跡（遺跡番号：M6005）

調査地 都城市南横市町 3924 番 1 外
 調査原因 宅地分譲
 調査期間 2011.8.25
 調査面積 12m²（対象面積：1,509.05m²）
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手



位置と環境

対象地は、養原台地の北部に位置する。北側約 700 m を流れる横市川流域では、縄文～弥生時代を中心とする遺跡群が確認されている。

調査結果

トレンチ 3 カ所を設定し、遺構検出は霧島御池軽石層上面にて行った。1T のみ鬼界アカホヤ火山灰層上面でも遺構検出を行い、さらに下の縄文時代早期の包含層まで掘り下げた。

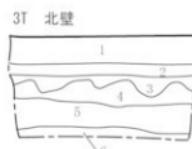
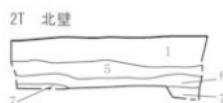
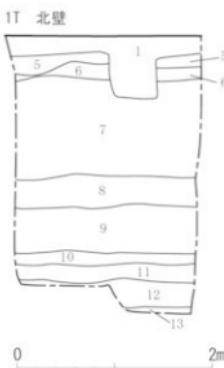
すべてのトレンチで霧島御池軽石層、及びその上の黒色土層が良好に残存していた。3T では文明年間（15世紀末）に降下した桜島文明軽石と思われる白色軽石の堆積が確認できた。

遺構・遺物は確認できなかった。



まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法 93 条 1 項の届出が必要となる。



- 1: 灰褐色砂質土 1cm以下の白色・黄色軽石微量、根少量、表土
- 2: 黒褐色砂質土 1cm以下の白色軽石少量
- 3: 白色軽石・黒褐色土・ブロック状の黒褐色土が混じる
- 4: 黒褐色シルト 5mm以下の白色・黄色軽石ごく微量
- 5: 暗褐色シルト 1cm以下の黄色軽石ごく少量、下部ほど多くなる
- 6: 暗褐色シルト 1cm以下の黄色軽石多量、固くしまる
- 7: 霧島御池軽石
- 8: 黒色シルト
- 9: 鬼界アカホヤ火山灰
- 10: 黒灰色シルト 硬質、1cm以下の橙色軽石ごく微量
- 11: 黒色シルト～茶褐色シルト 1cm以下の橙色軽石多量、桜島 P11火山灰濃集層
- 12: 茶褐色シルト 1cm以下の橙色軽石ごく微量
- 13: 明褐色シルト 5mm以下の橙色軽石ごく微量

トレンチ土層断面図 (S=1/50)

原村遺跡（遺跡番号：M5017）

調査地 都城市五十町 2491-1 外
 調査原因 宅地分譲
 調査期間 2011.8.29 ~ 8.31
 調査面積 12m² (対象面積: 1,829m²)
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は養原台地の南端部に位置する。周辺では近年、宅地分譲等に伴う試掘・確認調査の事例が多いが、本調査には至っていない。



調査結果

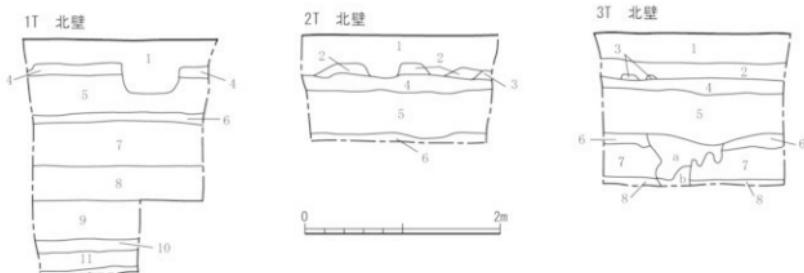
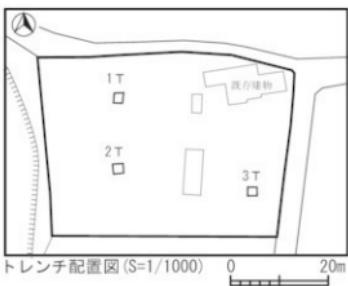
トレチ3カ所を設定し、遺構検出は霧島御池軽石層上面にて行った。1Tのみ鬼界アカホヤ火山灰層上面でも遺構検出を行い、さらにその下の縄文時代早期の包含層まで掘り下げた。

各トレチで、霧島御池軽石上の黒色土層より弥生土器や中近世の陶磁器の小片が出土したが、遺構は確認できなかった。

まとめ

遺構は確認できず、遺物の出土もごく少数であるため、当該地に遺跡が残存する可能性は低い。

ただし、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法93条1項の届出が必要となる。



- 1: 灰褐色砂質土 5mm以下の白色・黄色軽石ごく微量（表土・旧耕作土）
- 2: 黒色砂質土 5mm以下の白色軽石微量
- 3: 白色軽石 文明軽石、黒色土・黒色土ブロック混（搅拌）
- 4: 黑褐色土 5mm以下の黄色軽石ごく微量
- 5: 暗褐色土 1cm以下の黄色軽石ごく少量、下部ほど多い
- 6: 暗褐色土 1cm以下の黄色軽石多量、固くしまる（漸位層）
- 7: 黄色軽石 霧島御池軽石
- 8: 黒色シルト
- 9: 鬼界アカホヤ火山灰
- 10: 黒灰色シルト 硬質、5mm程度の橙色軽石ごく微量
- 11: 黑褐色～暗褐色シルト 5mm程度の橙色軽石やや多、1mm程度の白色粒少量（桜島P11火山灰濃集層）
- 12: 暗褐色シルト 5mm程度の橙色軽石やや多、1mm程度の白色粒微量
- a: 暗褐色土 5層が主体、2cm以下の黄色軽石やや多、固くしまる。（木根）
- b: 黒色土 8・5層が主体、2cm以下の黄色軽石やや多、固くしまる。（木根）

トレチ土層断面図 (S=1/50)

調査免遺跡（遺跡番号：M5034）

調査地 都城市今町 9021 番 1
 調査原因 個人住宅建設
 調査期間 2011.9.1
 調査面積 4.5 m² (対象面積: 1139.2 m²)
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は大淀川右岸、梅北台地の東部に位置する。調査区の東側を南北に走る国道 269 号線を南に 2km ほど下ると、九州では珍しい一里塚の国指定史跡である今町一里塚が道路沿いに見られる。



調査結果

浄化槽設置予定箇所にトレントを設定し、遺構検出は霧島御池軽石層上面及び鬼界アカホヤ火山灰層上面にて行った。鬼界アカホヤ火山灰を現地表から 2 m 以上掘り下げた地点で検出しており、その下には鬼界アカホヤ火山灰及びその下の霧島牛のすねテフラ (6000 ~ 6500 年前に降下) が合わせて数 10cm 以上堆積していることが予想される。浄化槽設置による掘削は現地表から 2 m 程度であることから、鬼界アカホヤ火山灰下の縄文時代早期以前の層については確認しなかった。

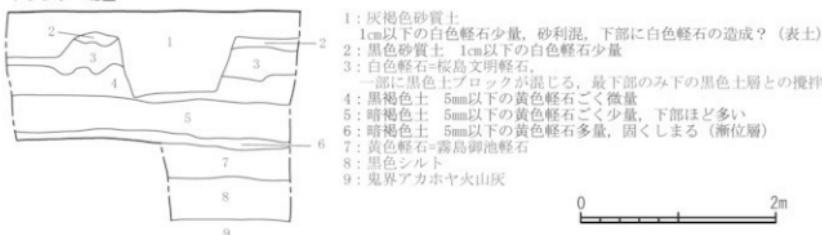
遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法 93 条 1 項の届出が必要となる。



トレント 北壁



後追遺跡（遺跡番号：TJ4004）

調査地 都城市高城町穂満坊 2094-1 外
調査原因 畜舎建設
調査期間 2011.9.14
調査面積 26.5m² (対象面積：約 2,700m²)
調査担当者 下田代清海 久松亮
調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は、大淀川右岸の高城台地の西側に位置する。低地に向かって舌状に伸びた台地の中央に位置する。

調査結果

トレーンチ 6 カ所を設定した。造構検出は霧島御池軽石層上面にて行った。

表土の下は黒色土、黄褐色土と堆積しており、黄褐色土の埋土をもつ住居跡と思われる造構が 4T で、黒色土を埋土とする東西方向に走向する溝状造構が 3T で確認された。その溝状造構の走向確認のため設定した 3aT でも溝状造構が確認された。

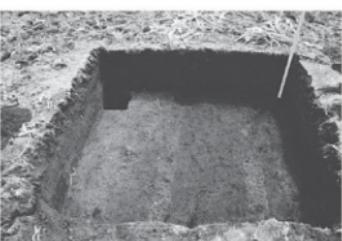
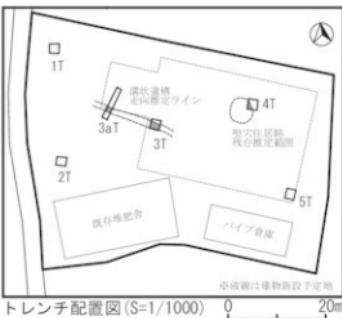
1T のみ霧島御池軽石に褐色砂質土が薄く層状に挟まれて堆積している。遺物は出土数が他のトレーンチに比べて少ないが、同じように黄褐色土中より出土している。

遺物はすべてのトレーンチから確認された。主に黄褐色土中からの出土が多かったが、黒色土を埋土とする溝状造構内からの出土も多い。

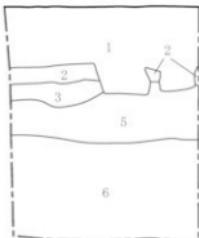
まとめ

対象地の全域から遺物が出土し、3T、3aT、4T で造構が確認された。したがって、本対象地のほぼ全域で弥生時代～古代の遺跡が残存していることが推測される。

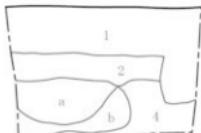
遺物の出土が顕著になる現地表から 50cm 以上の掘削を伴う事業を行う場合は、文化財の取扱いについて協議が必要である。



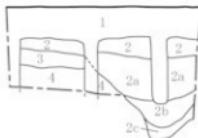
1T 北壁



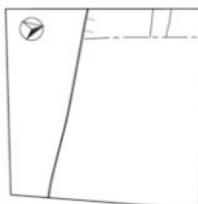
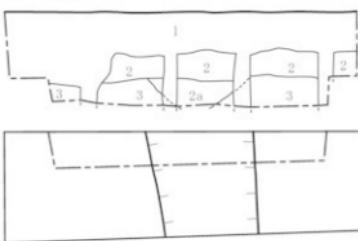
2T 北壁



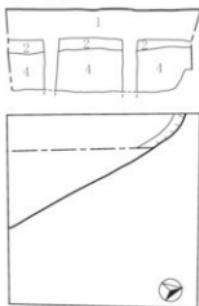
3T 東壁



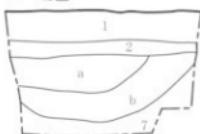
3aT 東壁



4T 西壁



5T 北壁



- 1 : 灰オリーブ砂質シルト (3mm以下の黄色軽石をまばらに含む)
 2 : 黒色粘質シルト (5mm以下の黄色軽石をごく僅かに含む)
 2a : 黒色粘質シルト (5mm以下の黄色軽石を含む)
 2b : 黒色粘質シルト (5mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
 2c : 黒色粘質シルト (5mm以下の黄色軽石を多量に含む)
 3 : 黄褐色粘質シルト (1cm以下の黄色軽石を含む)
 4 : 黄褐色粘質シルト (1cm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
 5 : にぶい黄褐色砂質土 (5mm以下の黄色軽石をまばらに含む)
 6 : 1cm以下の黄色軽石 (にぶい褐色砂質土のラミナ堆積あり)
 7 : 1cm以下の黄色軽石 = 露島御池軽石
 a : 暗褐色粘質シルト (5mm以下の黄色軽石をまばらに含む) = 倒木痕?
 b : 暗褐色粘質シルト (5mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む) = 倒木痕?

後追遺跡 トレンチ土層断面図・平面図 (S=1/50)

女橋遺跡（遺跡番号：M7005）

調査地 都城市今町 7822-4
 調査原因 宅地分譲
 調査期間 2011.9.21
 調査面積 4m²（対象面積：725m²）
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は大淀川右岸、梅北台地に位置する。北東約300mには、九州では珍しい一里塚の国指定史跡である今町一里塚が国道269号線沿いに見られる。南に500mほどで鹿児島との県境となる。

調査結果

対象地中央付近にトレント1カ所を設定した。遺構検出は霧島御池軽石層上面と、鬼界アカホヤ火山灰層上面にて行った。

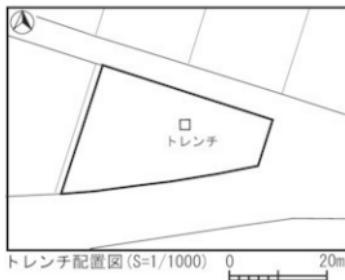
地表から70cm程度掘り下げた地点で桜島文明軽石と思われる堆積が一部で見られた。

ゴボウ等の作付によると思われる掘削が地表面から1mほど見られたが、現在の耕作土層が厚かったため、遺構検出面とした霧島御池軽石の濃集層（地表から約1.5m）までは影響がなかった。

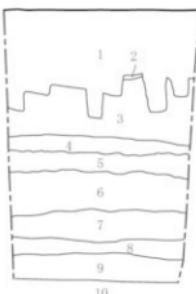
遺構検出時に遺構は確認できず、鬼界アカホヤ火山灰の下、縄文時代早期の遺物包含層まで掘り下げたが、遺物も確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包藏地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法93条1項の届出が必要となる。



トレント 北壁



0 2m

村ノ前遺跡（遺跡番号：M4008）

調査地 都城市郡元町 2758-1
 調査原因 宅地分譲
 調査期間 2011.10.3
 調査面積 5m²（対象面積：720m²）
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定



位置と環境

対象地は一万城扇状地の北側に位置する。南側約400mの地点には、1185年この地域の地頭となつた惟宗忠久の屋敷跡地と伝わる宮崎県指定史跡「祝吉御所跡」がある。

調査結果

対象地の中央付近にトレンチを1カ所設定した。遺構検出は霧島御池軽石層上面及び鬼界アカホヤ火山灰層上面にて行った。その下の縄文時代早期以前の層まで掘削をこころみたが、湧水のためそれ以下の掘削を断念した。

遺構・遺物は確認できなかった。

まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法93条1項の届出が必要となる。



遺構検出 霧島御池軽石層上面

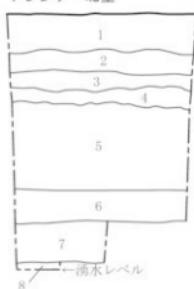


トレンチ配置図 (S=1/1000) 0 20m



トレンチ 北壁

トレンチ 北壁



- 1: オリーブ黒砂質シルト
(2mm以下の白色軽石、2mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
- 2: 黒色粘質シルト
(3mm以下の黄色軽石をまばらに含む)
- 3: 黒色粘質シルト
(3mm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
- 4: 黒色粘質シルト
(3mm以下の黄色軽石を多量に含む) = 霧島御池軽石への漸移層
- 5: 1cm以下の黄色軽石 = 霧島御池軽石
- 6: 黑色粘質土
- 7: 黄褐色火山灰（下部に火山豆石あり）= 鬼界アカホヤ火山灰
- 8: 青黒色砂質シルト 非常に硬くしまる= 霧島牛のすねテフラ



トレンチ土層断面図 (S=1/50)

猪之谷遺跡（遺跡番号：M7080）

調査地 都城市安久町 3415番4
 調査原因 携帯電話基地局建設
 調査期間 2011.10.12
 調査面積 4m²（対象面積：34m²）
 調査担当者 近沢恒典 久松亮
 調査後の措置 事業着手

位置と環境

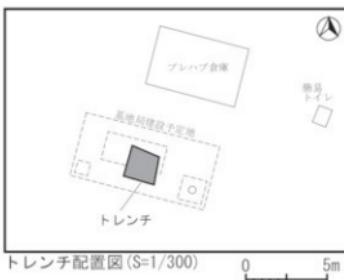
対象地は柳岳—金御岳山地から連なるシラス台地上に位置する。南東側は安楽川によって開削された谷地形となっている。調査区の西の旧道には、市指定有形文化財である石橋「鍋谷橋」その姿を留めている。



調査結果

トレンチ1カ所を設定し、遺構検出は霧島御池軽石層上面、鬼界アカホヤ火山灰層上面にて行った。

表土、黒色土下の褐色土上で黒色土の落込みを確認したが、さらに掘り下げた結果、自然地形であると判断した。霧島御池軽石は粒子が小さく、西側の谷に向かって傾斜して堆積していた。御池軽石の下は褐色土が堆積しており、そこから石器1点が出土した。どちらの検出面でも遺構は確認できなかった。

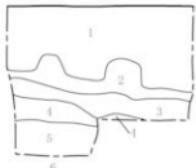


まとめ

遺構は確認できず、遺物は工事の影響を受けない霧島御池軽石層下（現地表から約1.1m）から石器1点が出土した。

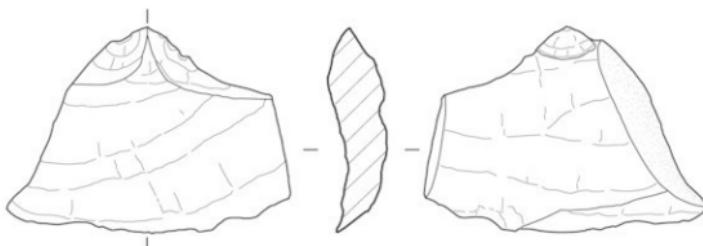
今回の工事の影響が及ぶ範囲において、遺跡が残存する可能性は低く開発に際して特に支障はない。ただし、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法93条1項の届出が必要となる。

トレンチ 北壁



トレンチ土層断面図 (S=1/50)

0 2m



0 10cm

出土遺物実測図

胡摩段遺跡（遺跡番号：M6004）

調査地 都城市南横市町 4047 番 3
 調査原因 宅地分譲
 調査期間 2011.10.26
 調査面積 8m²（対象面積：1.026m²）
 調査担当者 下田代清海 久松亮
 調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

対象地は蓑原台地の北端部に位置し、北には横市川により開削された河岸段丘が広がっている。現況は北側に向かってやや傾斜した耕作地である。



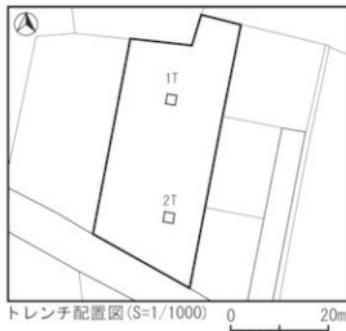
調査結果

トレーナー 2ヶ所を設定した。遺構検出は霧島御池軽石層上面及び鬼界アカホヤ火山灰層上面にて行った。

北側に設定した 1T では霧島御池軽石層まで現地表から約 1.5 m と深かった。遺構検出時に観察された黒色土の落込みは、半截して確認したところ木根であると判断した。

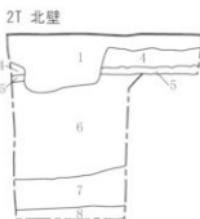
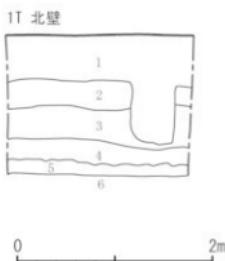
南側に設定した 2T は霧島御池軽石層まで 40cm と浅く、検出時に遺構は確認できなかった。さらに下層の鬼界アカホヤ火山灰層上面まで掘り下げたが遺構は確認できなかった。

遺物の出土はなかった。



まとめ

遺構・遺物は確認されていないが、周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれるため、土木工事等を行う場合は、事前に文化財保護法 93 条 1 項の届出が必要となる。



- 1 : オリーブ黒砂質シルト
(5mm以下の灰白色軽石をまんべんなく、
シラスブロックを部分的に含む)
- 2 : 黒褐色砂質シルト
(5mm以下の灰白色軽石をまんべんなく含む)
- 3 : 黑色シルト
(7mm以下の黄色軽石をまばらに含む)
- 4 : 黑色シルト
(1cm以下の黄色軽石をまんべんなく含む)
- 5 : 黑色シルト
(1cm以下の黄色軽石を多量に含む)
- 6 : 1cm以下の黄色軽石＝霧島御池軽石
- 7 : 黑色粘質シルト
- 8 : 黄褐色火山灰＝鬼界アカホヤ火山灰

トレーナー層断面図 (S=1/50)

取添第2遺跡（遺跡番号：M5023）

調査地 都城市都島町 519-2 外
調査原因 個人住宅建設
調査期間 2011.11.16
調査面積 約 20m²（対象面積：294.13m²）
調査担当者 下田代清海 久松亮
調査後の措置 事業着手予定

位置と環境

当該地は12世紀末の築城以来、1615年の一国一城令による廃城まで整備と拡張を繰り返しながら規模を拡大していった中世城郭「都城」を構成する曲輪の内、廃城前の時期に整備されたと考えられている取添曲輪とその周囲を包む空堀の推定範囲内に位置する。空堀は米軍撮影の空中写真でも確認できるので、埋却され道路・宅地化されたのは太平洋戦争後である。

調査結果

敷地を横断するように1m幅のトレーナーを設定し、空堀跡を検出したトレーナー西側の一部を拡幅した。遺構検出は霧島御池軽石層上面にて行った。

空堀の底付近から軽石片数点が出土した。また底付近の埋土より中世期の青磁1点が出土している。空堀の底で、青磁を含んだ埋土内に掘り込まれた柱穴2基を検出した。

空堀検出地点より東側は耕作や宅地造成の際に、霧島御池軽石層上面まで付近まで削平を受けていた。

まとめ

対象地西側の空堀の掘り込みが始まる付近では地表下約60cm、その西部側から道路までの区画では地表下約150cmより下に遺物包含層や遺構が存在している。

したがって対象地西側について、現地表から残存する遺構に影響が及ぶような工事を行う場合は、開発行為に先立ち事前の協議が必要である。

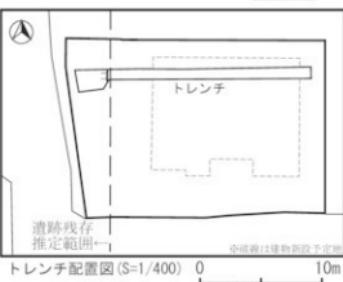
取添曲輪の空堀推定地は平成21年度、22年度も開発に伴う確認調査を実施している。今回の調査成果を併せてることで、古絵図に記された空堀の走向方向を確認することができた意義は大きい。



空堀底 柱穴の検出



調査区位置図 0 100m



トレーナー配置図 (S=1/400) 0 10m



トレーナー 北壁 空堀検出部



空堀底 柱穴の完堀



トレンチ北壁土層断面図及び堀底サブトレンチ平面図 (S=1/50)



報告書抄録

ふりがな	みやこのじょうしないいせき
書名	都城市内遺跡 5
副書名	
巻次	
シリーズ名	都城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第105集
編・著者名	久松 亮
編集機関	都城市教育委員会事務局文化財課 Tel 0986-23-9547 Fax 0986-23-9549
所在地	宮崎県都城市菖蒲原町19-1 都城市役所菖蒲原町別館 〒885-0034
発行年月日	2012年3月23日

所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
出口遺跡	都城市上長飯町21号2番付近	31° 43' 10"	131° 5' 10"	2011.5.10	10m ²	公有普通財産処分
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	近世	なし		陶磁器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
東町	都城市東町4327外付近	31° 43' 20"	131° 4' 10"	2011.7.4~7.8	56m ²	公有普通財産処分
豈海院跡推定地						
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
寺跡	近世	墓坑（改葬跡）		陶磁器・金属製品		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
西岳小学校	都城市美川町2928付近	31° 48' 29"	130° 57' 29"	2011.7.27	12m ²	体育館改築
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地外	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
姫城中学校	都城市姫城町25-71付近	31° 43' 0"	131° 3' 57"	2011.8.2	4m ²	大規模校舎改築
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地外	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
泡ノ友遺跡	都城市元町、早水町付近	31° 44' 17"	131° 5' 43"	2011.8.16~8.18	28m ²	道路改良
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	湖文	なし		疎		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
高崎小学校	都城市高崎町大牟田1179-1付近	31° 52' 25"	131° 4' 1"	2011.10.6	4m ²	校舎耐震補強
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
包蔵地外	なし	なし		なし		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
宮ノ下遺跡	都城市金田町付近	31° 46' 14"	131° 4' 32"	2011.11.14	6m ²	道路改良
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	中世	溝状遺構		土師器・須恵器		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
栗子野地下式横穴墓群	都城市栗子野町9457-2付近	31° 46' 35"	131° 2' 34"	2011.4.4~4.18	15m ²	自然崩壊
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
地下式	古墳	地下式横穴墓		人骨・刀子		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
安永城址	都城市庄内町13245-22付近	31° 46' 32"	131° 0' 47"	2011.5.17~5.18	12m ²	保安林整備
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
城址	中世	池状遺構		弥生土器・染付		
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
東脇遺跡	都城市庄内町12503-4付近	31° 46' 26"	131° 1' 20"	2011.6.22	4m ²	個人住宅建設
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
散布地	湖文	なし		縄文土器・石器		

所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
福原遺跡 1879外	都城市高崎町東露島	31° 50' 27" 付近	131° 4' 19" 付近	2011. 7. 13	24m ²	畜舍建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	なし	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
小笠第2遺跡	都城市糸原町3195-1外	31° 43' 46" 付近	131° 2' 10" 付近	2011. 7. 20	24m ²	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	なし	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
小松尾遺跡	都城市乙房町387番2	31° 45' 46" 付近	131° 3' 34" 付近	2011. 7. 21～7. 22	4m ²	携帯電話 基地局建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	なし	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
都島町 龍峯寺跡	都城市都島町1289-2外	31° 42' 43" 付近	131° 3' 2" 付近	2011. 8. 3～8. 5	27.75m ²	神社建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
寺跡	中世・近世	柱穴	陶磁器・軽石製品			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
田谷・尻枝遺跡	都城市南横木町3924番1 外	31° 44' 32" 付近	131° 1' 59" 付近	2011. 8. 25	12m ²	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	なし	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
原村遺跡	都城市五十町2491-1外	31° 42' 37" 付近	131° 2' 2" 付近	2011. 8. 29～8. 31	12m ²	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	弥生・中世・近世	なし	土器・陶磁器			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
諫訪免遺跡	都城市今町9021番1	31° 41' 55" 付近	131° 2' 21" 付近	2011. 9. 1	4.5m ²	個人住宅建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	なし	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
後追遺跡 2094-1外	都城市高城町德濃坊	31° 48' 55" 付近	131° 8' 1" 付近	2011. 9. 14	26.5m ²	畜舎建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	弥生・古墳・古代	堅穴住居跡・溝状遺構	十器			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
女橋遺跡	都城市今町7822-4	31° 40' 34" 付近	131° 1' 47" 付近	2011. 9. 21	4m ²	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	なし	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
村ノ前遺跡	都城市郡元町2758-1	31° 44' 32" 付近	131° 6' 0" 付近	2011. 10. 3	5m ²	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	なし	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
猪之谷遺跡	都城市安久町3415番4	31° 38' 15" 付近	131° 7' 48" 付近	2011. 10. 12	4m ²	携帯電話 基地局建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	御文	なし	石器			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
胡摩段遺跡	都城市南横木町4047番3	31° 44' 46" 付近	131° 2' 8" 付近	2011. 10. 26	8m ²	宅地分譲
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	なし	なし	なし			
所収遺跡名	所在地	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
取添第2遺跡	都城市都島町519-2外	31° 43' 6" 付近	131° 2' 51" 付近	2011. 11. 16	20m ²	個人住宅建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
散布地	中世	空廻跡	青磁・軽石製品			

都城市調査報告書 第105集

都城市内遺跡 5

2012年3月

編集 都城市教育委員会

発行 〒885-0034 宮崎県都城市菖蒲原町19-1

都城市役所菖蒲原町別館

TEL (0986) 23-9547 FAX (0986) 23-9549

印刷 株式会社 みやこ印刷

